



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 対象読者
 - 2.3. 本書の構成
- 3. 概要
 - 3.1. アプリケーション管理機能 とは
 - 3.2. 管理可能なローコード資材
 - 3.3. ロール
 - 3.3.1. Accel Studio 管理者 (accel_studio_manager)
 - 3.4. 必要な認可リソース
 - 3.5. 用語
 - 3.5.1. アプリケーション
 - 3.5.2. アプリケーションカテゴリ
 - 3.5.3. リソース
 - 3.5.4. アプリケーションルート
 - 3.5.5. 機能カテゴリ
 - 3.5.6. 定義カテゴリ
- 4. 機能仕様
 - 4.1. アプリケーション
 - 4.1.1. アプリケーションが扱う情報
 - 4.1.2. 国際化
 - 4.1.3. アプリケーションカテゴリ
 - 4.1.4. カテゴリの階層化
 - 4.1.5. カテゴリの削除
 - 4.1.6. アプリケーションの操作
 - 4.2. リソース
 - 4.2.1. リソースが扱う情報
 - 4.2.2. 機能カテゴリ
 - 4.2.3. 国際化
 - 4.2.4. リソースの操作
 - 4.3. リソース関連図
 - 4.3.1. リソース関連図で扱う情報
 - 4.3.2. リソース関連図の動作仕様
 - 4.3.2.1. リソース関連図 表示機能
 - 4.3.2.2. リソース起点でのリソース関連図を表示
 - 4.3.2.3. リソースのバージョン情報を含めて表示
 - 4.4. アプリケーション管理ログ
 - 4.4.1. アプリケーション管理ログの種類
 - 4.4.2. インポート時の管理ログの仕様
 - 4.5. インポート・エクスポート
 - 4.5.1. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.5.2. リソース情報詳細
 - 4.5.3. インポート・エクスポート時の動作仕様
 - 4.5.3.1. エクスポート
 - 4.5.3.2. インポート
 - 4.5.3.3. インポート適用時のリソース差分の確認
 - 4.6. アーカイブ機能
 - 4.6.1. アーカイブ機能で扱う情報
 - 4.6.2. アーカイブ機能の動作仕様

- 4.6.2.1. アーカイブ作成
- 4.6.2.2. アーカイブ適用
- 4.7. アプリケーション認可設定
 - 4.7.1. 認可設定時の動作
 - 4.7.2. 認可設定時の絞り込み
 - 4.7.3. リソース追加時の認可設定仕様
 - 4.7.4. リソースの閉塞状態
 - 4.7.5. IM-Knowledge における認可
- 4.8. Accel Studio全文検索機能
 - 4.8.1. Accel Studio全文検索機能の仕様
 - 4.8.1.1. 全文検索設定情報の管理
 - 4.8.1.2. 全文検索設定情報の選択
 - 4.8.1.3. クローリング
 - 4.8.1.4. インポート・エクスポート
 - 4.8.1.4.1. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.8.1.4.2. インポート・エクスポート時の動作仕様
- 4.9. ユーティリティ
 - 4.9.1. 自動採番
 - 4.9.1.1. 採番定義が扱う情報
 - 4.9.1.2. 国際化
 - 4.9.1.3. 採番定義カテゴリ
 - 4.9.1.4. 採番定義カテゴリが扱う情報
 - 4.9.1.5. カテゴリの階層化
 - 4.9.1.6. カテゴリの削除
 - 4.9.1.7. 採番形式
 - 4.9.1.8. 採番リセットスケジュール
 - 4.9.1.9. 現在の連番
 - 4.9.1.10. 採番定義の操作
 - 4.9.1.11. 採番の取得
 - 4.9.1.12. 採番のリセット
 - 4.9.1.13. 採番定義一覧
 - 4.9.1.14. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.9.1.15. インポート・エクスポート時の動作仕様
 - 4.9.2. 共通定数
 - 4.9.2.1. 共通定数定義が扱う情報
 - 4.9.2.2. 国際化
 - 4.9.2.3. 共通定数カテゴリ
 - 4.9.2.4. 共通定数カテゴリが扱う情報
 - 4.9.2.5. カテゴリの階層化
 - 4.9.2.6. カテゴリの削除
 - 4.9.2.7. 共通定数定義の操作
 - 4.9.2.8. 共通定数定義一覧
 - 4.9.2.9. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.9.2.10. インポート・エクスポート時の動作仕様
 - 4.9.3. 多言語メッセージ
 - 4.9.3.1. 多言語メッセージ が扱う情報
 - 4.9.3.2. 国際化
 - 4.9.3.3. 多言語メッセージカテゴリ
 - 4.9.3.4. 多言語メッセージカテゴリが扱う情報
 - 4.9.3.5. カテゴリの階層化
 - 4.9.3.6. カテゴリの削除
 - 4.9.3.7. メッセージグループの操作
 - 4.9.3.8. メッセージの操作

- 4.9.3.9. 多言語メッセージ定義一覧の動作仕様
- 4.10. ログ管理機能
 - 4.10.1. システムログ管理機能
 - 4.10.1.1. 出力対象となる処理
 - 4.10.1.2. システムログ管理機能が扱う情報
 - 4.10.1.3. 「システムログ一覧」画面
 - 4.10.1.4. システムログ詳細
 - 4.10.1.5. システムログのエクスポート
 - 4.10.1.6. システムログの出力設定
 - 4.10.1.7. システムログの削除
 - 4.10.2. リクエストログ管理機能
 - 4.10.2.1. 出力対象となる処理
 - 4.10.2.2. リクエストログ管理機能が扱う情報
 - 4.10.2.3. 「リクエストログ一覧」画面
 - 4.10.2.4. リクエストログ詳細
 - 4.10.2.5. リクエストログのエクスポート
 - 4.10.2.6. リクエストログの出力設定
 - 4.10.2.7. リクエストログの削除
- 4.11. 業務テンプレート
 - 4.11.1. 業務テンプレートの種類
 - 4.11.2. ユーザが作成したテンプレートが扱う情報
 - 4.11.3. ユーザが作成したテンプレートの操作
 - 4.11.4. テンプレート化対象定義一覧
 - 4.11.5. テンプレートに含まれる定義情報
 - 4.11.6. インポート・エクスポート
 - 4.11.6.1. インポート・エクスポートで扱う情報
 - 4.11.6.2. インポート・エクスポート時の動作仕様
- 4.12. Git連携
 - 4.12.1. Git認証定義で扱う情報
 - 4.12.2. Git認証定義の動作仕様
 - 4.12.2.1. Git認証定義の新規登録
 - 4.12.2.2. Git認証定義の削除
 - 4.12.3. アプリケーションのアップロード・インポートで扱う情報
 - 4.12.4. アップロードの動作仕様
 - 4.12.4.1. リモートリポジトリに未連携の場合
 - 4.12.4.2. リモートリポジトリに連携済の場合
 - 4.12.5. インポートの動作仕様
 - 4.12.5.1. リモートリポジトリと連携済の場合
 - 4.12.5.2. アプリケーションが環境に存在せず、新規にリモートリポジトリからインポートを行う場合
 - 4.12.6. リモートリポジトリの連携解除の動作仕様
 - 4.12.7. 利用時の注意事項
- 5. 付録
 - 5.1. Gitホスティングサービスのセットアップ
 - 5.1.1. GitHub
 - 5.1.1.1. リポジトリの作成
 - 5.1.1.2. パーソナルアクセストークンの作成
 - 5.1.2. GitLab
 - 5.1.2.1. リポジトリの作成
 - 5.1.2.2. パーソナルアクセストークンの作成
 - 5.1.3. Backlog
 - 5.1.3.1. パーソナルアクセストークンの作成

改訂情報

変更年月日	変更内容
2021-12-01	初版
2022-06-01	第2版 下記を追加・変更しました。 「アプリケーション」に「アプリケーションに紐付いているリソースの定義も削除する」にチェックを入れた場合の削除時処理内容の説明を追加。
2022-12-01	第3版 下記を追加・変更しました。 「概要」 - 「ロール」を追加。 「概要」 - 「管理可能なローコード資材」の管理対象にリソースについて、データ定義 を追加。 - 仕様変更に伴い、IM-Workflow の資材名、機能カテゴリ、定義カテゴリの記載内容を修正。 「概要」 - 「必要な認可リソース」のデフォルトで認可の許可設定がされるロールについて「Accel Studio 管理者 ロール」を追加。 「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」に認可設定時の絞り込みの仕様について追記。 - 仕様変更に伴い、「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」の記載内容を修正。 「機能仕様」 - 「リソース」の管理対象のリソースについて、データ定義 を追加。 - 仕様変更に伴い、IM-Workflow の資材名、機能カテゴリ、定義カテゴリの記載内容を修正。
2023-04-01	第4版 下記を追加・変更・削除しました。 「概要」 - 「ロール」に、Accel Studio 管理者 のサブロールの記述を追加。 - アプリケーションの公開・非公開機能の撤廃にともない、「機能仕様」からページを削除。 「アプリケーション管理ログ」からアプリケーション公開・非公開ログの記述を削除。 「機能仕様」 - 「アプリケーション認可設定」に、リソースの閉塞についての記述を追加。 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」を追加。 「リソース」に、デバッグログ一覧画面およびメニュー設定画面への遷移に関する記述を追加。
2023-10-01	第5版 下記を追加・変更・削除しました。 「機能仕様」 - 「インポート・エクスポート」に、差分表示、リソースについての記述を追加。 「機能仕様」 - 「リソース」の管理対象のリソースについて、ユーティリティ を追加。 「機能仕様」 - 「業務テンプレート」に、業務テンプレートについての記述を追加。 「機能仕様」 - 「アーカイブ機能」を追加。 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」の アプリケーションの条件 から Accel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から作成 を削除。 「機能仕様」 - 「ユーティリティ」を追加。 「機能仕様」 - 「リソース関連図」を追加。 「機能仕様」 - 「ログ管理機能」を追加。

変更年月日	変更内容
2024-04-01	第6版 下記を追加・変更・削除しました。 ■ 「ユーティリティ」 - 「自動採番」を追加。 ■ 「ユーティリティ」 - 「共通定数」を追加。 ■ 「アプリケーション」にアプリケーション削除時の生成されたテーブルの扱いについて追記。 ■ 「機能仕様」 - 「ログ管理機能」にシステムログ一覧画面とリクエストログ一覧画面へのサイトマップからのアクセス方法についての記述を追加。 ■ 「機能仕様」 - 「ログ管理機能」にシステムログとリクエストログのエクスポート機能について追記。 ■ 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」に全文検索設定情報のインポート・エクスポート機能について追記。 ■ 「ユーティリティ」 - 「自動採番」に採番定義のインポート・エクスポート機能について追記。 ■ 「機能仕様」 - 「業務テンプレート」にユーザが作成したテンプレートのインポート・エクスポート機能について追記。 ■ 「ユーティリティ」 - 「多言語メッセージ」に多言語メッセージについて追記。 ■ 「機能仕様」 - 「Git連携」にGit連携機能について追記。 ■ 「付録」を追加。 ■ 「機能仕様」 - 「Gitホスティングサービスのセットアップ」にGit連携機能のセットアップについての記述を追加。 ■ 「機能仕様」 - 「アプリケーション管理ログ」にリモートリポジトリからのインポートログとリモートリポジトリへのプッシュログについて追記。
2024-06-01	第7版 下記を追加しました。 ■ 「機能仕様」 - 「インポート・エクスポート」に、IM-BloomMaker のエレメントセットを追記。
2024-10-01	第8版 下記を追加しました。 ■ 仕様変更に伴い、「機能仕様」 - 「インポート・エクスポート」に、IM-BloomMaker のエレメントセットの記載内容を修正。 ■ 「機能仕様」 - 「Accel Studio全文検索機能」にある全文検索設定情報の選択対象となるエンティティの条件を追記。 ■ 「ユーティリティ」 - 「共通定数」に共通定数定義のインポート・エクスポート機能について追記。 ■ 「機能仕様」 - 「リソース関連図」のリソース起点でのリソース関連図に「ホーム」アイコンと「戻る」アイコンについて追記。 ■ 「機能仕様」 - 「Git連携」にGitホスティングサービスについて追記。 ■ 「付録」にGitLabとBacklogのセットアップについて追記。 ■ 「機能仕様」 - 「リソース」の管理対象のリソースについて、ドキュメントを追加。

はじめに

項目

- [本書の目的](#)
- [対象読者](#)
- [本書の構成](#)

本書の目的

本書では アプリケーション管理機能 の機能概要と仕組みの詳細について説明します。
説明範囲は以下の通りです。

- アプリケーション管理機能 の概要と用語
- アプリケーション管理機能 の機能仕様および機能詳細

対象読者

本書では次の開発者を対象としています。

- アプリケーション管理機能 の仕組みを理解したい

本書の構成

本書は次の構成で説明しています。

- [概要](#)

アプリケーション管理機能 の全体像、および、本書で利用する用語について説明します。

- [機能仕様](#)

アプリケーション管理機能 の提供する各機能の詳細な仕組みについて説明します。

概要

項目

- アプリケーション管理機能 とは
- 管理可能なローコード資材
- ロール
- 必要な認可リソース
- 用語

アプリケーション管理機能 とは

アプリケーション管理機能 とは、intra-mart Accel Platform の提供するローコード開発機能を統合し、各機能で作成されたローコード資材をアプリケーション単位で包括的に管理するための機能です。

アプリケーション管理機能 の特徴は以下の通りです。

- ローコード資材をアプリケーション単位で管理します。
- アプリケーション単位で認可の設定を行います。
- ローコード資材の変更履歴を管理します。
- アプリケーション単位でのインポート・エクスポートを行います。

管理可能なローコード資材

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-BloomMaker	コンテンツ定義	画面	画面コンテンツ
	ルーティング定義	公開URL	画面URL
IM-LogicDesigner	ロジックフロー定義	ロジック	ロジックフロー
	ロジックフロールーティング定義	公開URL	APIのURL
	トリガ定義	ロジック	ロジックトリガ
IM-Workflow	コンテンツ定義/フロー定義/ルート定義	ワークフロー	ワークフロー定義
ViewCreator	データ参照	画面	クエリのデータ参照
	ルーティング定義	公開URL	クエリのURL
	クエリ定義	ロジック	クエリ
IM-Repository	エンティティ	データ定義	データ定義
Low-codeユーティリティ	自動採番	ユーティリティ	自動採番
	共通定数	ユーティリティ	共通定数
	多言語メッセージ	ユーティリティ	多言語メッセージ
IM-Knowledge	ワークブック	ドキュメント	ワークブック
	Wiki	ドキュメント	Wiki



コラム

ワークフロー定義とは

2022 Winter(Freesia) より追加された定義カテゴリです。

2022 Spring(Eustoma) 以前ではコンテンツ定義、フロー定義、ルート定義として管理していました。

詳しくは「[リソース](#)」を参照してください。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-Workflow	コンテンツ定義	ワークフロー	コンテンツ定義
	フロー定義	ワークフロー	フロー定義
	ルート定義	ワークフロー	ルート定義

ロール

アプリケーション管理機能 では、標準で以下のロールが用意されています。

- Accel Studio 管理者

Accel Studio 管理者 (accel_studio_manager)

アプリケーション管理機能 で開発をする権限を有するロールです。

アプリケーション管理機能 画面で管理するローコード資材の確認や編集ができます。

Accel Studio 管理者 ロールは以下のロールをサブロールに持っています。

- IM-BloomMaker 管理者
- LogicDesigner 管理者
- IM-Repository 管理者
- ViewCreator管理者
- メニュー管理者 （※ 2023 Spring(Gerbera) 以降）
- Knowledge グループ管理者 （※ 2024 Autumn(Jasmine) 以降）
- Knowledge コンテンツ利用者 （※ 2024 Autumn(Jasmine) 以降）

アプリケーション管理機能 からは使用しない各機能の細かな機能については権限を有していないものもあるため、必要に応じて各ローコード開発製品の管理者ロールを併用してください。

必要な認可リソース

アプリケーション管理機能 では、デフォルトで テナント管理者 ロールと Accel Studio 管理者 ロールに認可の許可を設定しています。この認可設定はアプリケーション管理機能を利用するためのものであるため、ローコード資材の追加や更新を行うためには、各ローコード開発製品の認可の許可を設定する必要があります。

独自の認可設定を行い、アプリケーション管理機能を利用する場合は、認可設定に注意してください。

用語

アプリケーション

アプリケーション管理機能 で管理される単位の総称です。

固有の名前や備考情報と内包するローコード資材との関連情報を持ちます。

アプリケーションカテゴリ

アプリケーションに設定する分類情報を指します。

開発者は作成したアプリケーションに対して、その用途や適用範囲を示す情報としてアプリケーションカテゴリを設定します。

リソース

アプリケーションを構成するローコード資材の総称を指します。
アプリケーションに対して複数のリソースを関連付けることが可能です。
リソースとして管理されるローコード資材は [管理可能なローコード資材](#)にある通りです。

アプリケーションルート

アプリケーションと関係するリソースの中で、アクセスを管理するものを指します。
画面のURLやAPIのURLなど、ルーティングを管理するリソースがこれに該当します。

機能カテゴリ

リソースの種類を動作内容により分類するカテゴリです。
機能カテゴリは下記の通りです。

- 画面
 - 表示項目など、画面を構成するリソースが分類されるカテゴリです。
- 公開URL
 - ルーティング内容を管理するカテゴリです。
 - アプリケーションルートに該当するリソースが分類されます。
- ロジック
 - ビジネスロジックを管理するリソースが分類されるカテゴリです。
- ワークフロー
 - IM-Workflow の資材が管理されるカテゴリです。
- データ定義
 - IM-Repository の資材を管理するカテゴリです。
- ドキュメント
 - IM-Knowledge の資材を管理するカテゴリです。

定義カテゴリ

リソースに対応するローコード製品の資材名を分類するカテゴリです。
[管理可能なローコード資材](#)の資材名を アプリケーション管理機能 では定義カテゴリとして別名で呼称します。

機能仕様

アプリケーション

アプリケーションは、アプリケーション管理機能 における管理対象の単位であり、複数のリソースを内包します。

アプリケーションが扱う情報

アプリケーションは下記の情報を管理します。

- **アプリケーションID**
 - アプリケーションを一意に識別するためのIDです。
- **名前**
 - アプリケーションの名前です。
- **備考**
 - アプリケーションの内容に関する備考です。
- **アプリケーションカテゴリ**
 - アプリケーションを分類するカテゴリです。

国際化

アプリケーションの名称は、各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の表示名と標準表示名を持ちます。

原則として アプリケーション管理機能 では、ユーザのロケールに合わせた表示名を利用します。

対象のユーザのロケールに合致する表示名が定義されていない場合、アプリケーション管理機能 はその代替として標準表示名を利用します。

アプリケーションカテゴリ

アプリケーションカテゴリは、アプリケーションの利用用途や適用範囲を分類するための情報です。

アプリケーション管理機能 ではアプリケーションの管理・分類するための情報としてアプリケーションカテゴリを利用します。

カテゴリの階層化

アプリケーションカテゴリは階層構造を設定できます。

アプリケーションカテゴリに親カテゴリを設定することで、設定したカテゴリの子カテゴリとして設定され、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

アプリケーションカテゴリの削除には、物理削除が利用されます。

またアプリケーションカテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリの属するアプリケーションが存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに子カテゴリが存在しない場合

アプリケーションの操作

- **作成**
 - アプリケーション作成機能を利用して作成可能です。
 - 空のテンプレートを利用して、リソースの紐付いていない状態からゼロベースでアプリケーションを作成できます。
 - アプリケーションは、アプリケーションカテゴリに属する必要があります。
- **更新**
 - アプリケーション情報の更新ができます。
 - アプリケーション名、備考、所属するアプリケーションカテゴリの更新が可能です。
- **削除**
 - アプリケーション情報が物理削除されます。

- アプリケーション管理ログも同様に物理削除されます。
- アプリケーション作成時に生成されたテーブルは削除されません。
- アプリケーション削除時にアプリケーションカテゴリは削除されません。
- アプリケーションに関連するリソース情報
 - 「アプリケーションに紐付いているリソースの定義も削除する」にチェックを入れた場合、リソース情報に紐づくリソースの定義も削除されます。
 - 下記の場合、リソースの定義は削除されず、Accel Studio のアプリケーションとリソースの関連情報のみ削除されます。
 - 他のアプリケーションに対象のリソースの定義リソースが紐付いている場合
 - リソースの定義が、削除対象のアプリケーションに紐づかない別リソースの定義から参照されており、削除が実行できない場合
 - データ定義 のエンティティ、また、それに紐づくテーブル、内包するエンティティの項目

コラム

リソースの定義とは

リソースの定義とは、リソースの元となる各ローコードアプリケーションの資材のことです。

アプリケーション管理機能 では、アプリケーションに紐づく各ローコードアプリケーションの資材をリソースとして管理します。

各ローコードアプリケーションの資材から情報を同期し、アプリケーション管理機能 のリソースとして情報を管理しています。

注意

IM-LogicDesigner のロジックフロー定義の削除について

IM-LogicDesigner のリソースの定義であるロジックフロー定義が削除の対象である場合、利用されているユーザ定義が削除される場合があります。

ユーザ定義が複数のロジックフロー定義から参照されておらず、削除対象のロジックフローのみが参照している場合に削除されます。

また、フロー定義はアプリケーションに紐付けられ、アプリケーション管理機能 でリソースとして管理されているものが削除対象です。

そのため、リソースとして管理されているロジックフロー定義から別の管理外のロジックフロー定義を呼び出している場合、管理外のロジックフロー定義、またそのロジックフロー定義に利用されているユーザ定義は削除されません。

- インポート
 - アプリケーションのインポートにより、アプリケーションの新規作成、更新ができます。
 - 詳しい内容は、「[インポート・エクスポート](#)」を参照してください。
- アーカイブ機能
 - アプリケーションの構成情報、リソース情報をアーカイブ情報として保存、任意のタイミングでアーカイブ情報を適用し、アプリケーションをその時点の状態に戻すことができます
 - 詳しい内容は、「[アーカイブ機能](#)」を参照してください。

リソース

アプリケーション管理機能 では、アプリケーションに紐づく各ローコードアプリケーションの資材をリソースとして管理します。各ローコードアプリケーションの資材から情報を同期し、アプリケーション管理機能 のリソースとして情報を管理しています。

- [リソースが扱う情報](#)
- [機能カテゴリ](#)
- [国際化](#)
- [リソースの操作](#)

リソースが扱う情報

リソースが扱う情報は以下の通りです。

- リソース名
 - リソースの名称
- 備考
 - リソースの内容に関する備考
- 機能カテゴリ
 - リソースを分類するカテゴリ
- 定義カテゴリ
 - リソースの種別を表す定義名

機能カテゴリ

リソースは機能毎に機能カテゴリでグルーピングされています。
機能カテゴリの種類は以下の通りです。

- 画面
 - アプリケーションの画面を構成するリソースを管理するカテゴリです。
- 公開URL
 - アプリケーションの画面やロジックにアクセスするためのURLやルーティングを管理するリソースのカテゴリです。
- ロジック
 - アプリケーションのビジネスロジックを構成するリソースを管理するカテゴリです。
- ワークフロー
 - IM-Workflow のリソースを管理するカテゴリです。
- データ定義
 - IM-Repository のリソースを管理するカテゴリです。
- ユーティリティ
 - Low-codeユーティリティ のリソースを管理するカテゴリです。
- ドキュメント
 - IM-Knowledge のリソースを管理するカテゴリです。

各モジュールの資材はアプリケーション管理リソースとして下記のように管理されています。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-BloomMaker	コンテンツ定義	画面	画面コンテンツ
	ルーティング定義	公開URL	画面URL
IM-LogicDesigner	ロジックフロー定義	ロジック	ロジックフロー
	ロジックフロールーティング定義	公開URL	APIのURL
	トリガ定義	ロジック	ロジックトリガ
IM-Workflow	コンテンツ定義/フロー定義/ルート定義	ワークフロー	ワークフロー定義
ViewCreator	データ参照	画面	クエリのデータ参照
	ルーティング定義	公開URL	クエリのURL
	クエリ定義	ロジック	クエリ
IM-Repository	エンティティ	データ定義	データ定義
Low-codeユーティリティ	自動採番	ユーティリティ	自動採番
	共通定数	ユーティリティ	共通定数
	多言語メッセージ	ユーティリティ	多言語メッセージ
IM-Knowledge	ワークブック	ドキュメント	ワークブック

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
	Wiki	ドキュメント	Wiki

コラム

ワークフロー定義とは

2022 Winter(Freesia) より追加された定義カテゴリです。

2022 Spring(Eustoma) 以前ではコンテンツ定義、フロー定義、ルート定義として管理していました。

モジュール名	資材名	機能カテゴリ	定義カテゴリ
IM-Workflow	コンテンツ定義	ワークフロー	コンテンツ定義
	フロー定義	ワークフロー	フロー定義
	ルート定義	ワークフロー	ルート定義

それらを1つに集約した定義カテゴリ「ワークフロー定義」として管理できるようになりました。

また、ワークフロー定義ではAccel Studioに特化した専用管理画面を利用できます。

ワークフロー定義には、「テナント環境セットアップ」または、「アプリケーションインポート」にて自動的に移行されます。

ただし、制限事項に抵触している場合には移行されません。

制限事項を解消後「アプリケーションエクスポート」し、再度「アプリケーションインポート」を行ってください。

制限事項については、「[制限事項 - アプリケーション管理](#)」を参照してください。

コラム

「公開URL」タブからメニュー設定画面へ、「ロジック」タブからデバッグログ一覧画面へ遷移できます。

デバッグログ一覧画面には、遷移元のアプリケーションに紐づくロジックフローのデバッグログのみ表示します。

注意

IM-Workflow のリソースの新規追加について

IM-Workflow のリソースの新規追加はアプリケーションの自動生成機能経由でのみ可能です。

作成したアプリケーションに任意の IM-Workflow リソースを追加することはできません。

国際化

アプリケーション管理機能 のリソースでは、各モジュール資材で国際化に対応している場合、国際化情報を利用可能です。

リソースの操作

- 新規作成
 - アプリケーション管理画面のリソース作成画面から新規でリソースを作成できます。
 - 作成したリソースは自動的にアプリケーションに関連付けられます。
- 関連追加
 - 既存のローコード資材をアプリケーションの管理対象であるリソースとして関連付けることができます。
- 関連削除
 - アプリケーションからリソースの関連を削除します。
 - ローコード資材の本体は削除されません。
- 削除
 - 各ローコード資材の本体が削除されたときにアプリケーション管理のリソースは削除されます。
- インポート
 - アプリケーションのインポートにより、リソースの新規作成、更新、関連追加、関連削除を行います。
 - 詳しい内容は、「[インポート・エクスポート](#)」を参照してください。

リソース関連図

アプリケーション管理機能のリソース関連図では、アプリケーションと紐づいているすべてのリソース同士の関連をリソース関連図として表示します。

- [リソース関連図で扱う情報](#)
- [リソース関連図の動作仕様](#)

リソース関連図で扱う情報

リソース関連図は下記の情報を関連として表示します。

- **アプリケーションと紐づくリソース情報**
 - アプリケーションで扱うことができるリソース情報の詳細については「[リソース](#)」を参照してください。
- **アプリケーションと紐づくリソース情報が利用するリソース情報**
 - アプリケーションと紐づくリソース情報が利用するリソース（関連リソース）も関連図に表示します。
 - 関連リソースのうち、アプリケーションと紐づかないリソース情報は灰色の背景色で表示されます。
 - アプリケーションと紐づかないリソース情報の関連リソースは関連情報として扱わず、関連図に表示されません。
- **アプリケーションと紐づくリソース情報のバージョン情報**
 - アプリケーションに紐づくリソース情報が複数バージョンを持つ場合、画面上の設定に応じて全バージョンの関連を表示可能です。

コラム

関連リソースの例は以下の通りです。

起点となるリソースから [管理可能なローコード資産](#) に記載している各リソースへ関連づいている場合、関連リソースとして扱います。

- ロジックフロー の「フロー呼び出し」タスクで呼び出し先に指定しているロジックフロー
- IM-BloomMaker の「ルーティング定義」で指定されているコンテンツ定義

注意

IM-Knowledge のリソースについて

2024 Autumn(Jasmine) 時点で IM-Knowledge のリソースは表示されません。

リソース関連図の動作仕様

アプリケーション管理機能のリソース関連図機能の動作仕様は、以下の通りです。

リソース関連図 表示機能

アプリケーションと紐づいているすべてのリソース同士の関連をリソース関連図として表示します。
複数のバージョンを持つリソース情報では、最新のバージョン情報をもとに関連を表示します。

リソースを選択すると、右ペインにリソースの基本情報が表示されます。
アプリケーションに直接紐づいているリソースの場合、右ペインに編集アイコンが表示されます。
この編集アイコンから各リソース編集画面へ遷移し、参照および編集が可能です。

アプリケーションと直接紐づかないリソースの場合、リソースの背景色はグレーで表示されます。

さらに、以下の2種類のボタンによって関連図の表示内容を切り替えることが可能です。

リソース起点でのリソース関連図を表示

リソースを「起点」として選択し、起点に紐づくアプリケーションとリソース情報を表示します。
アプリケーションに直接紐づいているリソース情報のみ利用可能です。

コラム

リソース起点でのリソース関連図を表示した後、以下のアイコンによって画面遷移が可能です。

- 「ホーム」アイコンをクリックすると、アプリケーション起点のリソース関連図に遷移します。
- 「戻る」アイコンをクリックすると、遷移前の画面に戻ります。

リソースのバージョン情報を含めて表示

リソース関連図に表示されたリソースのすべてのバージョン情報と、各バージョンに紐づくリソースを表示します。

「リソースのバージョン情報を含めず表示」をクリックすると、元のバージョン情報を含まないリソース関連図が表示されます。

コラム

リソース関連図の背景をドラッグ&ドロップすることで、リソース関連図を横スクロールできます。

アプリケーション管理ログ

アプリケーション管理ログでは、アプリケーションの情報、構成情報の変更、内包するローコード資材に変更があったときにログとして記録を行う機能です。

アプリケーションに対して特定の操作を行った際に、実行ユーザ、実行日時を記録します。

リソースを複数のアプリケーションが共有していた場合、複数のリソースにアプリケーション管理ログが記録されます。

- [アプリケーション管理ログの種類](#)
- [インポート時の管理ログの仕様](#)

アプリケーション管理ログの種類

アプリケーション管理ログには以下の種類があります。

- **アプリケーション作成ログ**
 - アプリケーションの作成時に記録されます。
- **アプリケーション更新ログ**
 - アプリケーションの名前、備考、所属カテゴリを更新したときに記録されます。
- **アプリケーション認可更新ログ**
 - アプリケーションの認可設定が変更されたときに記録されます。
- **アプリケーションインポートログ**
 - アプリケーションがインポートされたときに記録されます。
- **リソース関連追加ログ**
 - アプリケーションに新規でリソースが関連付けられたときに記録されます。
- **リソース関連削除ログ**
 - アプリケーションからリソースの関連が削除されたときに記録されます。
- **リソース作成ログ**
 - アプリケーション管理機能 経由で新規でリソースを作成したときに記録されます。
- **リソース更新ログ**
 - アプリケーションに関連付けられているリソースが更新されたときに記録されます。
- **リソース削除ログ**
 - アプリケーションに関連付けられているリソースが削除されたときに記録されます。
- **リソース独自のログ**
 - リソース毎の固有の操作で独自にログが記録されます。
 - IM-Workflow
 - IM-Workflow のリソースを含むアプリケーションをインポートした場合、インポート時に登録情報で補完された内容をログとして記録します。

- アプリケーションのインポート、テナント環境セットアップによってワークフロー定義への移行処理が行われた場合、移行処理の結果をログとして記録します。
- リモートリポジトリからのインポートログ
 - Git連携機能 でリモートリポジトリからインポートしたときに記録されます。
- リモートリポジトリへのプッシュログ
 - Git連携機能 でアプリケーションをリモートリポジトリにアップロードしたときに記録されます。

インポート時の管理ログの仕様

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション管理ログは管理されていないため、アプリケーションを作成した環境から別環境には移行できません。

インポート・エクスポート

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション単位で内包するローコード資材を含めて統合的なインポート、エクスポートを行います。

- [インポート・エクスポートで扱う情報](#)
- [リソース情報詳細](#)
- [インポート・エクスポート時の動作仕様](#)

インポート・エクスポートで扱う情報

インポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

- アプリケーション情報
 - アプリケーション名、備考（国際化情報）を含みます。
 - アプリケーションのリソース関連情報を含みます。
- アプリケーションカテゴリ
 - カテゴリ名（国際化情報）を含みます。
- リソース情報
 - 各ローコード資材別にエクスポートされた資材を含みます。
 - 内部のファイル形式やフォーマットはローコード製品毎に異なります。



注意

アプリケーション管理ログについて
アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能では、アプリケーション管理ログは管理されていません。
アプリケーションを作成した環境から別環境には移行できません。

リソース情報詳細

各製品の定義情報とリソース情報との扱いについて説明します。
アプリケーションでは、各製品の定義情報を下記の3つに分けています。

- アプリケーションのリソースとして管理
- アプリケーションのリソースとして管理されないが、リソースに内包され、エクスポート/インポート対象※1
- アプリケーションのリソースと関連は持つが、リソースに内包せず、エクスポート/インポート対象外※2

対象製品	アプリケーションのリ ソースとして管理	※1	※2	備考
IM-BloomMaker	コンテンツ定義			
	ルーティング定義			

対象製品	アプリケーションの ソースとして管理	※1	※2	備考
		エレメントセット		
IM-LogicDesigner	フロー定義			
	ルーティング定義			
	トリガ定義			
		ユーザ定義		
IM-Workflow	ワークフロー定義			フロー定義/ルート定義/ コンテンツ定義をセッ トで、1つのワークフ ロー定義として管理 する。
		ルート定義		テンプレート置換用
		ルール定義		
		案件プロパティ定義		
		メッセージ定義		
			全文検索設定	
			フローグループ定義	
			一覧表示パターン定義	
			管理グループ定義	
IM-Repository	エンティティ			
		辞書項目		
		列挙型		
ViewCreator	クエリ			
	データ参照			
	ルーティング定義			
ユーティリティ	自動採番定義			
	共通定数定義			
	多言語メッセージグル ープ			1つの多言語メッセ ージグループ内で複 数のメッセージを管 理する。
IM-Knowledge	ワークブック			
		ナレッジグループ		
		タグ		
	Wiki			
		ナレッジグループ		
		タグ		



注意

エレメントセットの扱いについて
コンテンツ定義内のエレメントセットの利用方法によって、インポートの仕様が異なります。

- 利用方法が「コピー」の場合、エレメントセットはコンテンツ定義に内包されます。
- 利用方法が「参照」の場合、エレメントセットはコンテンツ定義に内包されません。
 - エレメントセットは独立したリソースとしてインポート・エクスポートされます。
 - 編集不可のエレメントセットはインポート・エクスポートの対象外です。

インポート・エクスポート時の動作仕様

アプリケーション管理機能 のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

エクスポート

エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容を、全てのアプリケーション管理機能 に関するデータを出力します。 アプリケーション管理ログはエクスポートされません。



注意

|common_im_knowledge|のナレッジグループに設定されている認可について
ナレッジグループに設定されている認可情報はエクスポート資材に含まれません。

インポート

インポート機能は、エクスポート機能により、アーカイブされたZIPファイルをもとに、アーカイブファイルに含まれる全てのアプリケーション管理機能 に関するデータを取り込みます。

インポートの方式にはアプリケーションの存在状態によって内部的に制御されています。インポート方式の選択は行えません。
ローコード資材のリソースも同様に存在していなければ新規作成、存在していた場合は更新処理が行われます。
なお、アプリケーションカテゴリは存在していない場合のみ新規作成され、更新処理は行われません。



注意

インポートによるアプリケーションの更新について
全ての情報の更新を行うため、各ローコード資材の更新も同時に行われます。
上書かれた情報を元に戻すことはできませんので注意してください。



注意

IM-Knowledge のナレッジグループに設定されている認可について
ナレッジグループに設定されている認可情報はエクスポート資材に含まれないため、インポート後に任意の設定が必要です。

インポート適用時のリソース差分の確認

下記のリソースが差分表示に対応しています。
インポート時にリソースに差分がある場合、インポート適用画面から各リソースの差分確認画面で差分を確認できます。

対象製品	対象リソース
IM-BloomMaker	コンテンツ定義
IM-LogicDesigner	フロー定義
IM-Workflow	ワークフロー定義
IM-Repository	エンティティ

アーカイブ機能

アプリケーション管理機能 のアーカイブ機能では、アプリケーションの構成情報、リソースの状態をアーカイブとして保存し、任意のタイミングでアーカイブを適用することでアプリケーションの状態をアーカイブ作成時点に戻すことができます。

- [アーカイブ機能で扱う情報](#)
- [アーカイブ機能の動作仕様](#)

アーカイブ機能で扱う情報

アーカイブ機能で扱われる情報は、内部的にアプリケーションインポート、エクスポート機能利用するため、扱われる情報はアプリケーションインポート、エクスポート機能に準じます。詳しい内容は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」を参照してください。

アーカイブ機能の動作仕様

アプリケーション管理機能 のアーカイブ機能の動作仕様は、以下の通りです。

アーカイブ作成

アーカイブ作成では、内部的にアプリケーションエクスポート機能を利用します。アーカイブ作成時に保存されるアーカイブ情報はアプリケーションエクスポート機能によって取得できるデータをアプリケーション内部に保持します。そのため、作成されるアーカイブはアプリケーションエクスポートの機能に準じます。

アーカイブ適用

アーカイブ適用では、内部的にアプリケーションインポート機能を利用します。そのため、アーカイブ適用時の仕様はアプリケーションインポート機能に準じます。ただし、アーカイブ適用時にはアプリケーションカテゴリは更新されません。

アプリケーション認可設定

アプリケーション認可設定では、作成したアプリケーションのリソース単位で認可設定を行います。認可マスタ画面から認可設定を編集した場合、本項目で説明するアプリケーション認可設定に反映され、同様にアプリケーション認可設定で編集した内容も、認可マスタ画面の認可設定に反映されます。

以降、縦軸を「リソース」、横軸を「認可サブジェクト」と呼称します。

コラム

アプリケーションを新規作成した際に、紐づくリソースに対して、テナント管理者、および、Accel Studio管理者がデフォルトでアクセス許可されます。

認可設定時の動作

設定変更は認可設定画面のグリッド上で行うことができます。操作手順は以下の通りです。

1. グリッド上で、認可を変更したいセルをクリックします。
2. 禁止状態（赤い×マーク）から許可状態（緑の許可マーク）に変更されたことを確認します。
または、許可状態から禁止状態に変更されたことを確認します。
3. 更新ボタンをクリックします。
4. 認可が「許可」、または、「禁止」に変更されます。

認可設定時の絞り込み

絞り込み条件エリアを開き、表示するリソース、および、認可サブジェクトを検索して絞り込むことができます。

- リソース（縦軸）の絞り込み / 認可サブジェクト（横軸）の絞り込み
 - テキストボックスに入力した内容に該当するリソース、および、認可サブジェクトが表示されます。
- 許可のリソースのみ表示
 - チェックをつけると、認可サブジェクトに対して1つでも許可されているリソースが表示されます。
- 変更中のリソースのみ表示
 - チェックをつけると、設定変更中のリソースのみが表示されます。

→
↺

更新
⋮

Accel Studio 管理者	FileExchange 管理者	ViewCreator 管理者	LogicDesigner 管理者	TableMaintenance 管理者
▼	▼	▼	▼	▼
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗
✓	✗	✗	✗	✗

絞り込み
リソース（縦軸）の絞り込み

認可サブジェクト（横軸）の絞り込み

☐ 許可のリソースのみ表示

☐ 変更中のリソースのみ表示

クリア

図：「アプリケーション認可設定」画面 - 絞り込み

リソース追加時の認可設定仕様

アプリケーションにリソースを追加した場合、認可マスタ画面で設定されている認可設定が反映されます。

同一アプリケーション内の他リソースに設定されている認可は自動設定されないため、必要な場合は個別に認可を設定してください。

i コラム

アプリケーション認可設定画面から認可サブジェクトを追加、および、削除することはできません。
サブジェクトに対する更新は認可マスタ設定画面から行ってください。

リソースの閉塞状態

リソースを閉塞状態にすると、設定されている認可の状態にかかわらず機能を利用できない状態にできます。

閉塞されているリソースは、リソース名の先頭に閉塞を示すアイコンが表示され、リソース名が赤文字で表示されます。

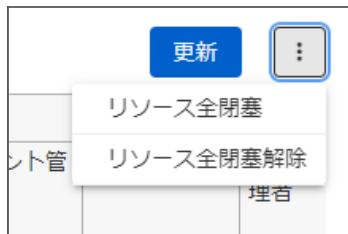
閉塞されているリソースに対しても、認可設定の変更は可能です。

リソース	認証		組織
	ゲストユーザ	認証済みユーザ	サンプル会社
	▼	▼	▼
【画面URL】			
⊗ TEST 登録画面 >	×	×	✓
TEST 参照画面 >	×	×	✓
TEST 一覧画面 >	×	×	✓
⊗ TEST 編集画面 >	×	×	✓
【APIのURL】			

図：「アプリケーション認可設定」画面 - 閉塞状態のリソース

アプリケーションに紐づくリソース全てを閉塞する、または、閉塞解除する手順は以下の通りです。

1. 画面右上のボタンをクリックすると、「リソース全閉塞」「リソース全閉塞解除」メニューが表示されます。
望んだ操作のメニューをクリックします。



図：「アプリケーション認可設定」画面 - 「リソース全閉塞」「リソース全閉塞解除」メニュー

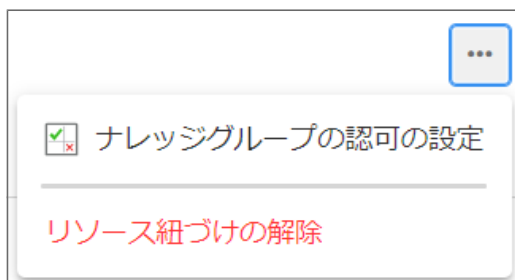
2. 確認ダイアログが表示されます。
このとき、リソースが他アプリケーションと共有されている場合は、その旨を表すメッセージが表示されます。
問題がなければ、「閉塞」、または、「閉塞解除」ボタンをクリックします。
3. リソースすべてが閉塞、または、閉塞解除されます。

i コラム

アプリケーション認可設定画面では、リソースを個別に閉塞、または、閉塞解除することはできません。
個別のリソースに対する閉塞状態の変更は、認可マスタ設定画面から行ってください。

IM-Knowledge における認可

IM-Knowledge のナレッジグループに対する認可設定はナレッジグループの認可設定画面から行います。
アプリケーション詳細の IM-Knowledge のリソースから遷移できます。



Accel Studio全文検索機能

IM-ContentsSearch for Accel Studio（以下、Accel Studio全文検索機能）は、IM-Workflow全文検索機能を拡張し、アプリケーションのリソースのワークフロー定義で申請／処理が行われた案件のユーザデータを全文検索する機能です。



コラム

当該機能は2023 Spring(Gerbera)より追加されました。



コラム

当該機能はIM-ContentsSearchが必要です。

IM-ContentsSearchのライセンスについての詳細は以下のドキュメントを参照してください。

- 「IM-ContentsSearch for Accel Platform リリースノート」 - 「ライセンスについて」



コラム

当該機能のベースとなるIM-Workflow全文検索機能の詳細は「[IM-ContentsSearch for IM-Workflow仕様書](#)」を参照してください。

Accel Studio全文検索機能の仕様

全文検索設定情報の管理

全文検索設定情報の管理は、アプリケーション／ワークフロー定義単位です。以下の条件を満たす情報が管理対象です。

- アプリケーションの条件
 - エンティティがリソース紐づけ
- ワークフロー定義の条件
 - ワークフロー定義が上記のアプリケーションのリソース紐づけ



注意

リソース紐づけの解除について

エンティティに対してリソースの紐づけの解除を行った場合、全文検索設定情報の管理情報は削除しません。

全文検索設定情報の選択

全文検索設定情報の選択は、アプリケーション／ワークフロー定義単位で管理するリソースに対して、エンティティ／エンティティ項目単位です。

以下の条件を満たす情報が選択対象です。

- エンティティの条件
 - エンティティ項目にユーザデータIDが以下の内容で定義
 - 主キー は **user_data_id** 1 つのみ
 - データベースの物理名が**user_data_id**
 - データ定義の検索条件に条件が**完全一致**かつ、**user_data_id**のみ
- エンティティ項目の条件
 - エンティティ項目のうち、以下の**Java**のデータ型で定義
 - **Integer**
 - **Long**
 - **Float**
 - **Double**
 - **BigInteger**
 - **BigDecimal**
 - **String**



コラム

アプリケーションのリソースに複数のエンティティが存在した場合について

アプリケーションのリソースに複数のエンティティが存在した場合、条件を満たすエンティティのすべてが選択できます。
例:

Accel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から以下のリソースを作成

アプリケーション:"application01"

ワークフロー定義:"workflow01"

エンティティ:"entity01"

アプリケーション:"application01"で以下のリソースを追加

ワークフロー定義:"workflow02"

エンティティ:"entity02"

アプリケーション:"application01"／ワークフロー定義:"workflow01"単位で全文検索設定情報の選択を行う際、エンティティ:"entity01"とエンティティ:"entity02"が対象です。



コラム

ユーザデータIDについて

エンティティ項目にユーザデータIDはJavaのデータ型がStringですが、選択できません。



注意

リソース紐づけの解除について

エンティティに対してリソースの紐づけの解除を行った場合、全文検索設定情報の選択情報は削除しません。

クローリング

基本仕様は「[IM-ContentsSearch for IM-Workflow仕様書](#)」を参照してください。



コラム

クローリング対象について

クローリング対象の情報は、ワークフロー定義で申請／処理が行われた案件のシステム案件IDに紐づくユーザデータIDから取得できた情報です。

上記の情報のうち、全文検索設定情報の選択で指定したエンティティ／エンティティ項目と一致するものだけがクローリングの対象にします。



コラム

2022 Winter(Freesia)のAccel Studioのテンプレートの「シンプルなワークフロー」から作成されたアプリケーションのエンティティ項目の添付ファイルについて

このエンティティ項目はJava変数名がfileKeyListでJavaのデータ型がStringです。

上記のエンティティ項目は、添付ファイルとして、クローリングします。

インポート・エクスポート



コラム

全文検索設定情報のインポート・エクスポート機能は2024 Spring(Iris)より追加されました。

インポート・エクスポートで扱う情報

インポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

- アプリケーションID
- リソースID

- 全文検索設定情報の選択情報

インポート・エクスポート時の動作仕様

全文検索設定情報のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

■ エクスポート

エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容をjsonファイルに出力します。
設定状態が未設定の情報も出力します。

■ インポート

インポート機能は、エクスポート機能により、出力された json ファイルをもとに、ファイルに含まれる全文検索設定情報が以下の条件を満たす場合に、データを取り込みます。

- インポート先環境で「[全文検索設定情報の管理](#)」に記載した条件を満たす管理対象である。
- インポート先環境で「[全文検索設定情報の選択](#)」に記載した条件を満たす選択対象である。

インポート先環境の全文検索設定情報は、ファイルの全文検索設定情報に上書きされます。

ユーティリティ

ユーティリティは、ローコード製品で共通で利用する機能の集合体です。



コラム

ユーティリティは2023 Autumn(Hollyhock)より追加されました。

自動採番

自動採番は、採番定義を管理する機能、連番値を管理する採番簿から採番を取得する機能と連番値を変更する機能を提供します。



コラム

自動採番は2023 Autumn(Hollyhock)より追加されました。

- 採番定義が扱う情報
- 国際化
- 採番定義カテゴリ
- 採番定義カテゴリが扱う情報
- カテゴリの階層化
- カテゴリの削除
- 採番形式
- 採番リセットスケジュール
- 現在の連番
- 採番定義の操作
- 採番の取得
- 採番のリセット
- 採番定義一覧
- インポート・エクスポートで扱う情報
- インポート・エクスポート時の動作仕様

採番定義が扱う情報

採番定義は下記の情報を管理します。

- 採番定義ID

- 採番定義を一意に識別するためのIDです。
- **採番定義名**
 - 採番定義の名前です。
- **説明**
 - 採番定義の内容に関する説明です。
- **採番定義カテゴリ**
 - 採番定義を分類するカテゴリです。
- **採番形式**
 - 採番の形式の設定です。
- **採番リセットスケジュール**
 - 採番の形式の設定です。
- **現在の連番**
 - 採番の現在の連番に関する設定です。

国際化

採番定義の名称と説明は、各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の表示名と標準表示名を持ちます。原則として採番定義管理機能では、ユーザのロケールに合わせた表示名を利用します。対象のユーザのロケールに合致する表示名が定義されていない場合、採番定義管理機能はその代替として標準表示名を利用します。採番定義カテゴリについても同様です。

採番定義カテゴリ

採番定義カテゴリは、採番定義の利用用途や適用範囲を分類するための情報です。採番定義管理機能では採番定義の管理・分類するための情報として採番定義カテゴリを利用します。

採番定義カテゴリが扱う情報

採番定義カテゴリは下記の情報を管理します。

- **カテゴリID**
 - カテゴリを一意に識別するためのIDです。
- **カテゴリ名**
 - カテゴリの名前です。
- **親カテゴリID**
 - 親カテゴリのカテゴリIDです。
- **ソート番号**
 - カテゴリの表示順を制御するための番号です。

カテゴリの階層化

採番定義カテゴリは階層構造を設定できます。採番定義カテゴリに親カテゴリを設定することで、設定したカテゴリの子カテゴリとして設定され、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

採番定義カテゴリの削除には、物理削除が利用されます。また採番定義カテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリの属する採番定義が存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに子カテゴリが存在しない場合

採番形式

採番形式は、採番要素を組み合わせ、採番の書式を設定する項目です。

採番要素は下記の項目を提供します。

- 連番
 - 当該要素は1つ設定できます。
 - 開始番号、表示桁数、増分値が設定できます。
- 文字列
 - 当該要素は複数設定できます。
 - 任意の文字を設定できます。
- 区切り文字
 - 当該要素は複数設定できます。
 - - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、/ (スラッシュ)、. (ドット) から選択できます。
- 日付形式
 - 当該要素は複数設定できます。
 - yyyy/MM/dd、yy/MM/dd、yyyy/MM、yy/MM、MM、ddから選択できます。
- 年度
 - 当該要素は複数設定できます。
 - 開始月
 - 年度の開始する月を設定できます。
 - 年度の種類
 - 西暦、和暦から選択できます。
 - 形式
 - yyyy、yyから選択できます。

採番リセットスケジュール

採番リセットスケジュールは、採番簿から採番を取得した際に、採番簿の連番の値を初期化する設定です。

- 採番リセット周期
 - 設定する、設定しないから選択できます。
 - 設定しない場合は、採番簿から採番を取得した際に、採番簿の連番の値を初期化しません。
- 繰り返し
 - 採番リセット周期が設定する場合、毎年、毎月、毎日から選択できます。
- 月
 - 採番リセット周期が設定する、繰り返しが毎年の場合、月を設定できます。
- 日
 - 採番リセット周期が設定する、繰り返しが毎年または毎月の場合、日を設定できます。

コラム

採番簿の連番の値を初期化する契機について

当該設定において、採番リセット周期を設定する、という設定を行った場合、採番形式に日付形式、年度の有無に関係なく、採番簿から採番を取得する内部処理で採番簿の連番の値を初期化します。

取得する採番が重複しないよう設計してください。

また、初期化する日付の判定は、システム日時点を基準として、時間は 00:00:00 として判定します。

コラム

存在しない日を設定した場合

当該設定において、採番リセット周期を設定する、かつ、存在しない日を設定した場合、採番簿から採番を取得する内部処理では、当月の末日として取り扱います。

例えば、繰り返しに「毎月」、日に「31」と設定した場合、1月の場合は31日で処理しますが、4月の場合は30日で処理します。

現在の連番

採番簿で管理する連番の値を管理します。

- 現在番号
 - 採番簿で管理する連番の値を表示します。
- 現在番号の変更
 - 採番簿で管理する連番の値を変更します。

採番定義の操作

- 作成
 - 採番定義の作成ができます。
 - 採番定義ID
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール



コラム

作成時に設定できない項目

作成時には 現在の番号 は設定できません。
採番簿は作成されません。



コラム

採番簿が作成されるタイミング

採番定義を作成した後、採番簿から採番を初めて取得したときに、採番簿が作成されます。

- 更新
 - 採番定義の更新ができます。
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール
 - 現在の連番



コラム

更新時に変更できない項目

更新時には 採番定義ID、採番形式の連番の開始番号 は変更できません。



注意

更新した後、取得する採番に影響がある項目

採番形式の採番要素

採番が生成済みの場合、採番形式設定を変更すると次回から生成済みの採番と異なる形式の採番が生成されます。

採番形式の連番の表示桁数

表示桁数を減らすと生成できる採番の個数が減ります。生成できる採番の上限を超えると採番が生成できません。

採番形式の連番の増分値

増分値を増やすと生成できる採番の個数が減ります。生成できる採番の上限を超えると採番が生成できません。

採番リセットスケジュール

以下の変更を行った場合、採番簿が削除されます。管理していた連番の値も削除されます。

採番リセット周期を設定する/しないの変更

繰り返しの毎年/毎月/毎日の変更

月/日の変更

■ コピー新規

- 当該採番定義の情報を複製して、新たに採番定義を作成できます。
- 複製する情報は以下の通りです。
 - 採番定義名
 - 説明
 - 採番定義カテゴリ
 - 採番形式
 - 採番リセットスケジュール



コラム

アプリケーションのリソースとして管理されている採番定義の場合

コピー新規した採番定義はアプリケーションのリソースには含まれません。
作成時に戻る、または作成後は採番定義一覧へ遷移します。

■ 削除

- 採番定義の削除ができます。
- 採番簿の削除ができます。

採番の取得

採番簿から採番を取得します。

- 当該機能の詳細は「[IM-LogicDesigner仕様書](#)」を参照してください。

採番のリセット

採番簿の連番の値を設定します。

- 当該機能の詳細は「[IM-LogicDesigner仕様書](#)」を参照してください。

採番定義一覧

採番定義の一覧を参照できます。

カテゴリの登録、更新、削除ができます。



コラム

採番定義一覧へのアクセス

採番定義一覧は2024 Spring(Iris)でサイトマップ、グローバルメニューを提供しました。

2023 Autumn(Hollyhock)時点ではサイトマップ、グローバルメニューは提供しておりません。
採番定義一覧を利用する場合は、以下のURLからアクセスしてください。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/lowcode_utilities/autonumbering/list`

インポート・エクスポートで扱う情報

インポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

- 採番定義（[採番定義が扱う情報](#)）
 - 採番定義名、説明（国際化情報）を含みます。
- 採番定義カテゴリ（[採番定義カテゴリが扱う情報](#)）
 - カテゴリ名（国際化情報）を含みます。
 - カテゴリ階層を含みます。

インポート・エクスポート時の動作仕様

採番定義のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

- エクスポート
 - エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容を出力します。
採番定義カテゴリは、採番定義が分類されているカテゴリと、その親カテゴリ全てが出力対象です。
- インポート
 - インポート機能は、エクスポート機能により、出力された json ファイルをもとに、ファイルに含まれる全ての採番定義と採番定義カテゴリに関するデータを取り込みます。
採番定義と採番定義カテゴリは、存在していなければ新規作成、存在していた場合は更新処理が行われます。



コラム

採番定義 インポート、採番定義 エクスポートへのアクセス

採番定義 インポート、採番定義 エクスポートは2024 Spring(Iris)でサイトマップ、グローバルメニューを提供しています。
採番定義一覧より遷移することも可能です。

共通定数

共通定数では、共通定数定義を管理する機能を提供します。

共通定数定義とはIM-BloomMaker、IM-LogicDesignerで共通で利用できる定数を定義しているものです。

IM-BloomMaker、IM-LogicDesignerそれぞれで使用する定数として利用できます。

共通定数定義を変更した場合、各製品には変更が即時反映されます。



コラム

共通定数は2024 Spring(Iris)より追加されました。



注意

IM-BloomMaker、IM-LogicDesignerを利用しているが、アプリケーションに対して利用する共通定数が紐づけされていない場合、アプリケーション内に共通定数情報は含まれません。

アプリケーションのエクスポート資材にも含まれないため、リソースがアプリケーションと紐づいているかどうかリソース関連図を参照して確認してください。

リソース関連図については、「[リソース関連図](#)」を参照してください。

- [共通定数定義が扱う情報](#)
- [国際化](#)
- [共通定数カテゴリ](#)
- [共通定数カテゴリが扱う情報](#)
- [カテゴリの階層化](#)
- [カテゴリの削除](#)
- [共通定数定義の操作](#)
- [共通定数定義一覧](#)
- [インポート・エクスポートで扱う情報](#)
- [インポート・エクスポート時の動作仕様](#)

共通定数定義が扱う情報

共通定数定義は下記の情報を管理します。

- **共通定数ID**
 - 共通定数定義を一意に識別するためのIDです。
- **型**
 - 共通定数定義の型情報です。
 - 文字列
 - 整数
 - 浮動小数点数
 - 高精度小数
 - 真偽値
 - 日付・時刻
- **定数値**
 - 共通定数定義の定数値です。
- **共通定数カテゴリ**
 - 共通定数定義を分類するカテゴリです。
- **説明**
 - 共通定数定義の内容に関する説明です。

国際化

共通定数定義の説明は、各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の説明を持ちます。

原則として共通定数定義管理機能では、ユーザのロケールに合わせた説明を利用します。

対象のユーザのロケールに合致する説明が定義されていない場合、共通定数定義管理機能はその代替として標準の説明を利用します。

共通定数カテゴリについてはカテゴリの名称も同様です。

共通定数カテゴリ

共通定数カテゴリは、共通定数定義の利用用途や適用範囲を分類するための情報です。

共通定数定義管理機能では共通定数定義の管理・分類するための情報として共通定数カテゴリを利用します。

共通定数カテゴリが扱う情報

共通定数カテゴリは下記の情報を管理します。

- **カテゴリID**
 - カテゴリを一意に識別するためのIDです。
- **カテゴリ名**
 - カテゴリの名前です。
- **親カテゴリID**
 - 親カテゴリのカテゴリIDです。
- **ソート番号**
 - カテゴリの表示順を制御するための番号です。

カテゴリの階層化

共通定数カテゴリは階層構造を設定できます。

共通定数カテゴリに親カテゴリを設定することで、設定したカテゴリの子カテゴリとして設定され、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

共通定数カテゴリの削除には、物理削除が利用されます。

また共通定数カテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリの属する共通定数定義が存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに子カテゴリが存在しない場合

共通定数定義の操作

- **作成**
 - 共通定数定義の作成ができます。
 - 共通定数ID
 - 型
 - 定数値
 - 共通定数カテゴリ
 - 説明
- **更新**
 - 共通定数定義の更新ができます。
 - 定数値
 - 共通定数カテゴリ
 - 説明



コラム

更新時に変更できない項目

更新時には 共通定数ID、型 は変更できません。

- **コピー新規**
 - 当該共通定数定義の情報を複製して、新たに共通定数定義を作成できます。
 - 複製する情報は以下の通りです。
 - 型
 - 定数値
 - 共通定数カテゴリ
 - 説明

i コラム

アプリケーションのリソースとして管理されている共通定数定義の場合

コピー新規した共通定数定義はアプリケーションのリソースには含まれません。
作成時に戻る、または作成後は共通定数定義一覧へ遷移します。

- 削除
 - 共通定数定義の削除ができます。

共通定数定義一覧

共通定数定義の一覧を参照できます。
カテゴリの登録、更新、削除ができます。

インポート・エクスポートで扱う情報

インポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

- 共通定数定義 ([共通定数定義が扱う情報](#))
 - 共通定数定義名、説明（国際化情報）を含みます。
- 共通定数定義カテゴリ ([共通定数カテゴリが扱う情報](#))
 - カテゴリ名（国際化情報）を含みます。
 - カテゴリ階層を含みます。

インポート・エクスポート時の動作仕様

共通定数定義のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

- エクスポート
 - エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容を実出力します。
共通定数定義カテゴリは、共通定数定義が分類されているカテゴリと、その親カテゴリ全てが出力対象です。
- インポート
 - インポート機能は、エクスポート機能により、出力された json ファイルをもとに、ファイルに含まれる全ての共通定数定義と共通定数定義カテゴリに関するデータを取り込みます。
共通定数定義と共通定数定義カテゴリは、存在していなければ新規作成、存在していた場合は更新処理が行われます。

i コラム

共通定数定義 エクスポートの注意点

インポートファイルに記載されている共通定数定義の型が変更されている場合、インポート対象外となり、該当データのインポートはスキップされます。

多言語メッセージ

多言語メッセージは、リソースで共通となるメッセージの機能を提供します。

メッセージはグループ単位にて登録を行います。

多言語メッセージではグループを1つのリソースとして扱います。

登録したメッセージは IM-BloomMaker の変数の多言語に追加し、キャプション、メッセージ、条件式等での使用が可能です。

複数アプリケーションで共通のメッセージを利用したい場合、多言語メッセージ で定義したメッセージを IM-BloomMaker で設定して利用が可能です。

i コラム

多言語メッセージは 2024 Spring(Iris)より追加されました。



コラム

アプリケーションに対して利用するメッセージグループをリソースとして紐づけ、利用します。
リソースについては、「[リソース](#)」を参照してください。



注意

アプリケーションの画面（IM-BloomMaker）で、多言語メッセージを利用しているが、アプリケーションに対して利用するメッセージグループが紐づけされていない場合、アプリケーション内に多言語メッセージ情報は含まれません。

アプリケーションのエクスポート資材にも含まれないため、リソースがアプリケーションと紐づいているかどうかリソース関連図を参照して確認してください。

リソース関連図については、「[リソース関連図](#)」を参照してください。

- [多言語メッセージ が扱う情報](#)
- [国際化](#)
- [多言語メッセージカテゴリ](#)
- [多言語メッセージカテゴリが扱う情報](#)
- [カテゴリの階層化](#)
- [カテゴリの削除](#)
- [メッセージグループの操作](#)
- [メッセージの操作](#)
- [多言語メッセージ定義一覧の動作仕様](#)

多言語メッセージ が扱う情報

多言語メッセージ では下記の情報を管理します。

- **メッセージグループ**
 - 複数のメッセージを管理するグループです。
 - グループID
 - グループを識別するためのIDです。
 - システム内のグループIDは、一意である必要があります。
 - グループ名
 - グループの名前です。
 - 標準名は必ず登録する必要があります。
 - 説明
 - グループの内容に関する説明です。
 - カテゴリ
 - グループを分類するカテゴリです。
- **メッセージ**
 - グループに含まれるメッセージを管理します。
 - メッセージは以下の情報を保持します。
 - メッセージキー
 - メッセージを識別するためのキーです。
 - メッセージキーは「グループID」 + 「-（ハイフン）」 + 「キー」で構成されます。
例）グループID：cmn、キー：001の場合
メッセージキー：cmn-001
 - システム内のメッセージキーは、一意である必要があります。
 - キー
 - メッセージキーのキー情報です。
 - グループ内でキーは、一意である必要があります。
 - 更新時も変更可能です。

- メッセージ
 - 画面等に表示するキャプション、メッセージです。
 - 標準メッセージは必ず登録する必要があります。



コラム

メッセージは、グループ単位での管理を行います。
登録メッセージは、IM-BloomMaker での変数・多言語に追加可能です。
追加したメッセージは、キャプションやメッセージとしての使用や、条件式等での利用が可能です。



注意

IM-BloomMaker の画面で多言語メッセージを利用している場合、多言語メッセージのキーおよびメッセージを変更した場合は、IM-BloomMaker 側の多言語メッセージキーおよびメッセージは変更されません。
多言語メッセージのキーを変更した場合は、IM-BloomMaker の多言語メッセージの設定を一度削除し、再設定してください。
多言語メッセージのキーは変更せずメッセージを変更した場合は、IM-BloomMaker の多言語メッセージを再読み込みしてください。

国際化

メッセージグループの名称、説明は各ロケール用（製品標準では、日本語、英語、中国語）の表示名と標準表示名を持ちます。
メッセージグループで登録するメッセージも同様に標準、ロケール毎のメッセージを持ちます。

原則としてユーザのロケールにあわせた名称等を利用します。
対象ユーザのロケールに合致する名称等が定義されていない場合、標準の名称等を利用します。
また、メッセージグループに含まれるメッセージは、各ロケール用のメッセージ、標準メッセージを持ちます。

多言語メッセージカテゴリ

多言語メッセージカテゴリは、メッセージグループの利用用途や適用範囲を分類するための情報です。
メッセージグループを管理・分類するための情報として利用します。
カテゴリは必ず指定する必要があります。未登録の場合、登録する必要があります。

多言語メッセージカテゴリが扱う情報

多言語メッセージカテゴリは下記の情報を管理します。

- **カテゴリID**
 - カテゴリを一意に識別するためのIDです。
- **カテゴリ名**
 - カテゴリの名前です。
- **親カテゴリID**
 - 親カテゴリのカテゴリIDです。
- **ソート番号**
 - カテゴリの表示順を制御するための番号です。

カテゴリの階層化

多言語メッセージカテゴリは階層構造を設定できます。
多言語メッセージカテゴリに親カテゴリを設定することで子カテゴリとなり、階層構造を持ちます。

カテゴリの削除

多言語メッセージカテゴリは、物理削除が利用されます。
多言語メッセージカテゴリは、下記の条件の場合のみ削除可能です。

- 削除対象のカテゴリに属するメッセージグループが存在しない場合
- 削除対象のカテゴリに子カテゴリが存在しない場合

メッセージグループの操作

- **新規作成**
 - 以下の登録を行います。
 - グループID
 - メッセージグループを識別するためのIDを指定します。システム内で一意となるよう指定します。
 - グループ名
 - メッセージグループの名称を指定します。
 - 説明
 - メッセージグループについての説明を入力します。
 - 親カテゴリ
 - メッセージグループのカテゴリを指定します。
 - メッセージ
 - グループで管理するメッセージを登録します。
- **更新**
 - グループIDは変更不可です。その他の項目については登録時と同様に変更可能です。
- **削除**
 - グループを削除します。
 - グループにメッセージが登録されている場合、同時に削除されます。

メッセージの操作

- **新規作成**
 - メッセージキー
 - メッセージを識別するためのキーを指定します。キーはグループ内で一意となるよう指定します。
 - メッセージ
 - メッセージの内容を入力します。
- **更新**
 - メッセージキー、メッセージとも変更可能です。
- **削除**
 - メッセージを削除します。

多言語メッセージ定義一覧の動作仕様

カテゴリ、メッセージグループおよびメッセージの一覧を参照できます。

- **左ツリー検索**
 - 検索では、カテゴリ、メッセージグループのフィルタリングが可能です。
 - フィルタリングではカテゴリ名およびグループ名に入力文字が含まれるものが表示されます。
 - カテゴリに親カテゴリが設定されている場合、全ての親カテゴリが表示されます。
- **左ツリーカテゴリ・グループ選択**
 - カテゴリを選択すると、親カテゴリが選択したカテゴリに設定されているグループのメッセージが一覧に表示されます。
 - グループを選択すると、選択グループのメッセージが一覧に表示されます。
- **左ツリーカテゴリ選択時**
 - カテゴリが選択されていると、メッセージ一覧に選択中のカテゴリ名と編集アイコンが表示されます。
 - 編集アイコンをクリックすることで、カテゴリ編集画面に遷移します。
- **左ツリーグループ選択時**
 - グループが選択されていると、メッセージ一覧に選択中のグループ名と編集アイコンが表示されます。
 - 編集アイコンをクリックすることで、グループ編集画面に遷移します。
- **メッセージ一覧**
 - メッセージ一覧では、メッセージのフィルタリングが可能です。
 - 対象項目（メッセージグループ名、メッセージキー、メッセージ）を選択し、名称を入力すると入力文字が含まれるメッセージが表示されます。

- 表示切替でメッセージ一覧に表示するロケール（標準、日本語、英語、中国語）を選択できます。
- メッセージ一覧でメッセージのリンクをクリックすると、編集画面へ遷移します。

ログ管理機能

システムログ・リクエストログ情報をデータベースに出力します。

ログ管理機能では、Accel Studio に紐づくリソースのログ情報を閲覧できます。

アプリケーションからリソースの紐づけを解除した場合は、一覧画面から対象のログ情報が表示されなくなります。

ログ情報の保存処理はログ情報をスタックした上で、データベースに書き出します。サーバの停止待機時間を短くしている場合、または即時終了するように設定している場合は、ログ情報出力が正常に動作しない可能性があります。

スタックするログ件数の設定方法の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

ログ情報の取得値の最大値を設定できます。

取得上限基準値の設定方法の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[Low-codeユーティリティ設定](#)」を参照してください。

- システムログ管理機能
 - 出力対象となる処理
 - システムログ管理機能が扱う情報
 - 「システムログ一覧」画面
 - システムログ詳細
 - システムログのエクスポート
 - システムログの出力設定
 - システムログの削除
- リクエストログ管理機能
 - 出力対象となる処理
 - リクエストログ管理機能が扱う情報
 - 「リクエストログ一覧」画面
 - リクエストログ詳細
 - リクエストログのエクスポート
 - リクエストログの出力設定
 - リクエストログの削除

システムログ管理機能

システムログ管理機能は Accel Studio に紐づく、IM-Workflow、IM-LogicDesigner のシステムログ情報を閲覧できます。

出力対象となる処理

各製品のログ保存対象は下記のとおりです。

IM-Workflow は「案件終了処理」「到達処理」「ユーザ展開タスク」で発生するログ情報を保存します。

IM-LogicDesigner はフロー内で発生するログ情報と「ログ出力タスク」で出力されるログ情報を保存します。

システムログ管理機能が扱う情報

システムログは下記の情報を管理します。

imtn_system_log

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL 制約
system_log_id	文字列	ログ単位の一意となるIDです。	●	●
request_id	文字列	リクエストID		

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL 制約
product_category	文字列	製品カテゴリ		●
product_resource_id	文字列	IM-Workflow の場合は、 フローID IM-LogicDesigner の場合は、 フロー定義ID		
logger_name	文字列	ロガー名		●
log_level	文字列	ログレベル		●
log_message	文字列	ログメッセージ		
log_message_key	文字列	ログメッセージ		
stack_trace	バイナリ	スタックトレース		
execute_user_cd	文字列	実行ユーザID		
execute_date	日時	実行日時		●
reserved01	文字列	IM-Workflow の場合は、 システム案件ID IM-LogicDesigner の場合は、 タスクID		
create_user_cd	文字列	作成者コード		●
record_user_cd	文字列	更新者コード		●
create_date	日時	作成日時		●
record_date	日時	更新日時		●

「システムログ一覧」画面

「システムログ一覧」画面から、閲覧、検索、およびエクスポートができます。
一覧に表示される情報は以下のとおりです。

- 実行日時
- リクエストID
- ログレベル
- 実行ユーザ
- 製品カテゴリ
- フローID
- ログメッセージ
- ログメッセージキー

アクセス方法としては、2024 Spring(Iris) よりサイトマップ、グローバルメニューを提供しています。全てのアプリケーションに紐づくシステムログ情報を表示します。

Accel Studio の管理画面からアクセスする一覧画面では、当該アプリケーションに紐づくリソースのシステムログ情報を表示します。但し、当該アプリケーションで管理しているリソースが他のアプリケーションに紐付けられている場合は、他のアプリケーションの実行時に出力されたログ情報についても表示します。

また、Accel Studio の管理画面からアクセスする一覧画面では、アプリケーションから紐づけを解除したリソースのログ情報に関しては、一覧画面から表示されなくなります。

システムログ詳細

「システムログ一覧」画面の表示項目に加えて、以下の情報を表示します。

- スタックトレース

システムログのエクスポート

すべてのシステムログをCSVファイルにエクスポートします。

一覧でログ検索を行っている場合は検索条件で絞り込まれた結果がエクスポートされます。

スタックトレースは1件ごとに別ファイルとしてエクスポートされます。

■ スタックトレース



注意

大量のシステムログをエクスポートする場合、処理に時間がかかることがあります。
その場合、検索を利用して複数回に分けてエクスポートを行ってください。

システムログの出力設定

ログ出力設定を行います。ログ出力時のスタック量、製品カテゴリ、ログレベル毎に出力するかどうかを設定できます。
システムログのデータベース出力用ログ情報設定の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

システムログの削除

各種製品でデータベースへ出力されたシステムログ情報を削除します。
ジョブ機能の詳細は「[ジョブ・ジョブネットリファレンス](#)」 - 「[データベースのシステムログ削除](#)」を参照してください。

リクエストログ管理機能

リクエストログ管理機能は Accel Studio に紐づく、IM-BloomMaker、IM-LogicDesigner のリクエストログ情報を閲覧できます。

出力対象となる処理

IM-BloomMaker、IM-LogicDesigner のルーティング定義のREST APIが呼び出された際に、リクエストログを保存します。

リクエストログ管理機能が扱う情報

リクエストログは下記の情報を管理します。

imtn_request_log

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL 制約
request_log_id	文字列	ログ単位の一意となるIDです。	●	●
request_id	文字列	リクエストID		●
http_status	数値	HTTPステータスコード		●
http_method	文字列	HTTPメソッド		●
process_time	数値	HTTPステータスコード		●
logger_name	文字列	ロガー名		●
log_level	文字列	ログレベル		●
product_category	文字列	製品カテゴリ		●
product_resource_id	文字列	ルーティングID		●
execute_user_cd	文字列	実行ユーザID		●
execute_date	日時	実行日時		●
request_url	文字列	リクエストURL		●
referer	文字列	リクエスト発生元URL		
session_id	文字列	セッションID		
ip_address	文字列	リモートアドレス		

カラム名	データ型	説明	主キー	NOT NULL 制約
remote_host	文字列	リモートホスト		
user_agent	文字列	ユーザエージェント		
request_query_string	文字列	クエリ文字列		
input_value	バイナリ	入力値		
create_user_cd	文字列	作成者コード		●
record_user_cd	文字列	更新者コード		●
create_date	日時	作成日時		●
record_date	日時	更新日時		●



注意

入力値に保存される情報

- IM-BloomMaker の場合は、画面に連携されるリクエストパラメータ を保存します。
- IM-LogicDesigner の場合は、フロー定義に設定されている入力値に合致するリクエストパラメータ を保存します。

「リクエストログ一覧」画面

「リクエストログ一覧」画面から、閲覧、検索、およびエクスポートができます。
一覧に表示される情報は以下のとおりです。

- 実行日時
- リクエストID
- ステータスコード
- 処理時間
- 実行ユーザ
- リクエストURL
- クエリ文字列
- HTTPメソッド
- リクエスト発生元URL
- 製品カテゴリ
- ルーティングID
- リモートホスト
- IPアドレス
- セッションID
- ユーザエージェント

アクセス方法としては、2024 Spring(Iris) よりサイトマップ、グローバルメニューを提供しています。全てのアプリケーションに紐づくリクエストログ情報を表示します。

Accel Studio の管理画面からアクセスする一覧画面では、当該アプリケーションに紐づくリソースのリクエストログ情報を表示します。

但し、当該アプリケーションで管理しているリソースが他のアプリケーションに紐付けられている場合は、他のアプリケーションの実行時に出力されたログ情報についても表示します。

また、Accel Studio の管理画面からアクセスする一覧画面では、アプリケーションから紐づけを解除したリソースのログ情報に関しては、一覧画面から表示されなくなります。

リクエストログ詳細

「リクエストログ一覧」画面の表示項目に加えて、以下の情報を表示します。

- 入力値

リクエストログのエクスポート

すべてのリクエストログをCSVファイルにエクスポートします。
 一覧でログ検索を行っている場合は検索条件で絞り込まれた結果がエクスポートされます。
 以下の情報は1件ごとに別ファイルとしてエクスポートされます。

- 入力値



注意

大量のリクエストログをエクスポートする場合、処理に時間がかかることがあります。
 その場合、検索を利用して複数回に分けてエクスポートを行ってください。

リクエストログの出力設定

ログ情報出力設定を行います。ログ出力時のスタック量、製品カテゴリ、ログ項目毎に出力するかどうかを設定できます。
 リクエストログのデータベース出力用ログ情報設定の詳細は「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[データベース出力用ログ情報設定](#)」を参照してください。

リクエストログの削除

各種製品でデータベースへ出力されたリクエストログ情報を削除します。
 ジョブ機能の詳細は「[ジョブ・ジョブネットリファレンス](#)」 - 「[データベースのリクエストログ削除](#)」を参照してください。

業務テンプレート

業務テンプレートとはAccel Studioで提供するアプリケーションの雛型となる情報を内包する定義情報です。業務テンプレートを利用してアプリケーションを構成するロジックや画面などを自動で生成できます。

業務テンプレートの種類

- Accel Studio標準のテンプレート
 - 製品標準、サービスまたは追加モジュールで提供するテンプレートです。
 - Accel Studio標準のテンプレートに関する詳しい情報は「[Accel Studio テンプレートカタログ](#)」を参照してください。
- ユーザが作成したテンプレート
 - ユーザがAccel Studioアプリケーションを元に作成したテンプレートです。
 - この章では、ユーザが作成したテンプレートに関する内容について説明します。

ユーザが作成したテンプレートが扱う情報

ユーザが作成したテンプレートが扱う情報は以下の通りです。

- **テンプレートID**
 - テンプレートを一意に識別するためのIDです。
- **テンプレート名**
 - テンプレートの名前です。
- **テンプレートデータ**
 - アプリケーションを構成するロジックや画面などの雛型となる情報です。
この情報を修正、削除することはできません。
- **説明**
 - テンプレートの内容に関する説明です。
- **ソート番号**
 - テンプレートを表示する際のソート番号です。テンプレート一覧画面でソート番号が昇順となるように表示されます。

ユーザが作成したテンプレートの操作

- 作成

- テンプレート作成機能を利用して作成可能です。
- アプリケーションを元に業務テンプレートを作成できます。
- 更新
 - 業務テンプレート一覧画面からテンプレートを更新できます。
 - テンプレート名、説明、ソート番号の更新が可能です。
- 削除
 - 業務テンプレート一覧画面からテンプレートを削除できます。
 - テンプレートを削除しても、削除するテンプレートから作成したアプリケーションは削除されません。
 - テンプレートを削除しても、元となるアプリケーションは削除されません。



コラム

アプリケーションに紐づいているリソースのバージョン情報は全てテンプレート化されます。
不要なバージョン情報はテンプレート作成前に削除してください。



注意

Accel Studio標準のテンプレートを修正、削除することはできません。

テンプレート化対象定義一覧

テンプレートを作成する際、アプリケーション内の定義情報はテンプレートデータとして登録されます。
アプリケーション作成時に、IDと各定義の参照情報は新しいIDに置換され、新しい定義として作成されます。

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象
IM-BloomMaker	コンテンツ定義	ID		
		画面	IM-LogicDesigner フロー定義	フロールーティング○にリクエストを送信する
			ViewCreator ルーティング定義	ルーティング○にリクエストを送信する
			IM-Repository エンティティ	エンティティから作成した変数定義、入出力定義
			IM-Repository 辞書項目	辞書項目から作成した変数定義、入出力定義
	ルーティング定義	ID		
		URL		
		コンテンツ	IM-BloomMaker コンテンツ定義	
	エレメントセット	ID	IM-BloomMaker コンテンツ定義	利用方法が「参照」の場合のみ
IM-LogicDesigner	フロー定義	ID		
		フロー	IM-LogicDesigner フロー定義	フロー呼び出し
			IM-LogicDesigner フロー定義	ユーザ定義タスク
			IM-Repository エンティティ	エンティティから作成した変数定義、入出力定義
				辞書項目から作成した変数定義、入出力定義
			ユーティリティ 採番定義	採番取得、採番リセット
	ルーティング定義	ID		

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象
			ルーティング (URL)	
			認可URI	
			対象フロー	IM-LogicDesigner フロー定義
	トリガ定義	ID		
		対象フロー	IM-LogicDesigner フロー定義	
	ユーザ定義タスク	ID		
ViewCreator	データ参照	データ参照コード		
		対象クエリ	ViewCreator クエリ	
	クエリ	クエリコード		
	ルーティング定義	ルーティングID		
		ルーティングURI		
		対象クエリ	ViewCreator クエリ	
		認可URI		
IM-Workflow	ワークフロー定義	ID		
		コンテンツID		
		ルートID		
		フローID		
	フロー設定・画面	IM-BloomMaker ルーティング定義	画面コンテンツ/URLを利用	
	フロー設定・処理	IM-LogicDesigner フロー定義	ロジックフローを利用	
	フロー設定・画面	IM-BloomMaker ルーティング定義	画面コンテンツ/URLを利用	
	ノード情報・処理	IM-LogicDesigner フロー定義	アクション処理	
		IM-Workflow ルート定義	テンプレート置換ノード	
		IM-Workflow ルール定義	条件分岐	
	案件プロパティ定義	キー		
	ルール定義	ID		
		条件値	IM-Workflow 案件プロパティ定義	
	メッセージ定義	ID		
		フロー定義	IM-LogicDesigner フロー定義	配信メディア: LogicDesigner
IM-Repository	エンティティ	ID		
		エンティティ項目	IM-Repository 辞書項目	
		エンティティ関連	IM-Repository エンティティ	

モジュール名	定義	対象	紐付いている定義	対象
		テーブル名		
		参照項目設定	IM-Repository 辞書項目	他のエンティティを参照先とする場合
			IM-Repository エンティティ	他のエンティティを参照先とする場合
		検索条件	IM-Repository エンティティ	
	辞書項目	ID		
		エイリアス	IM-Repository 辞書項目	
		列挙型	IM-Repository 辞書項目	
	列挙型	ID		
ユーティリティ	採番定義	ID		
	共通定数定義	ID		
	多言語メッセージ	ID		
IM-Knowledge	ワークブック	ID		
	Wiki	ID		

テンプレートに含まれる定義情報

テンプレート作成時に、元となるアプリケーション内の定義情報は、以下のどちらかを選択してテンプレートに取り込まれます。

※ ここで記述している「定義情報」とは、アプリケーションに紐づくリソース（例：IM-LogicDesigner フロー定義）と、リソースに内包される定義情報（例：IM-LogicDesigner ユーザ定義）を指します。

詳しい内容は、「[リソース情報詳細](#)」を参照してください。

- アプリケーション作成時に定義情報を複製する
 - 定義情報が、アプリケーション作成の度に複製されるようにしてテンプレートに含めます。
テンプレート作成画面において、「複製」を選択したままにしてください。
- アプリケーション作成時に定義情報を複製せず、「共通定義」とする
 - 元となるアプリケーションの定義情報をそのままテンプレートに取り込みます。
アプリケーション作成時にIDの置換などは行われません。
複数のアプリケーションを跨って定義情報が利用されることを想定しています。
テンプレート作成画面において、「複製」を選択しないでください。



注意

ユーティリティの定数定義と多言語メッセージはテンプレートでは複製は行えません。
IM-Knowledge のワークブックとWikiはテンプレートでは複製は行えません。

以下はテンプレート作成からアプリケーション作成までの「定義情報」の一例です。

- 元となるアプリケーションは以下の通りです。
 - アプリケーションA
 - IM-LogicDesigner フロー定義A
 - IM-LogicDesigner フロー定義B
- アプリケーションA をテンプレート化します。ここで、フロー定義B は「共通定義」とします。
- 作成したテンプレートから アプリケーションB を作成します。作成したアプリケーションに含まれる定義は以下の通りです。
 - アプリケーションB
 - IM-LogicDesigner フロー定義A コピー
 - IM-LogicDesigner フロー定義B

フロー定義AはアプリケーションBが作成される時点で複製され、アプリケーションBには別の定義として登録されます。
一方、「共通定義」としたフロー定義BはアプリケーションA、アプリケーションBの両方に含まれます。



コラム

定義情報をテンプレートに含めたくない場合は、テンプレート作成前にアプリケーションから紐付けを解除してください。



注意

定義情報を「共通定義」とした場合の動作について

アプリケーション作成時に、共通定義が環境に存在しない場合は新規作成されます。

アプリケーション作成時に、テンプレート作成時点の定義情報で上書きインポートされるため、注意してください。

インポート・エクスポート

ユーザが作成したテンプレートはインポート・エクスポートができます。



注意

Accel Studio標準のテンプレートはインポート・エクスポートできません。

インポート・エクスポートで扱う情報

ユーザが作成したテンプレートのインポート・エクスポートでは以下の情報を扱います。

■ テンプレート情報

- テンプレートID、テンプレート名（国際化情報）、説明（国際化情報）、ソート番号を含みます。
- テンプレートデータを含みます。詳しい内容は「[テンプレート化対象定義一覧](#)」を参照してください。

インポート・エクスポート時の動作仕様

ユーザが作成したテンプレート のインポート・エクスポート機能の動作仕様は、以下の通りです。

■ エクスポート

エクスポート機能は、「[インポート・エクスポートで扱う情報](#)」に記載した内容をZIPファイルとして出力します。

■ インポート

インポート機能は、エクスポート機能により出力されたZIPファイルをもとに、ZIPファイルに含まれるテンプレートデータを
取り込みます。



注意

インポート先の環境に同一IDのテンプレートが存在する場合、上書きされます。

同一IDのテンプレートが存在しているかどうかを確認するには、インポートでファイルをアップロードした後、内容確認
のステータスにて確認可能です。



注意

定義情報を「共通定義」とした場合の動作について

既に同一IDの定義情報がある場合、テンプレート作成時の「テンプレートに含まれる定義情報」の項目にて「複製」を選
択していない定義情報は、インポート時には上書きされませんが、インポートしたテンプレートを使用してのアプリケー
ションの作成時に上書きされます。

詳しい内容は「[テンプレートに含まれる定義情報](#)」を参照してください。

Git連携

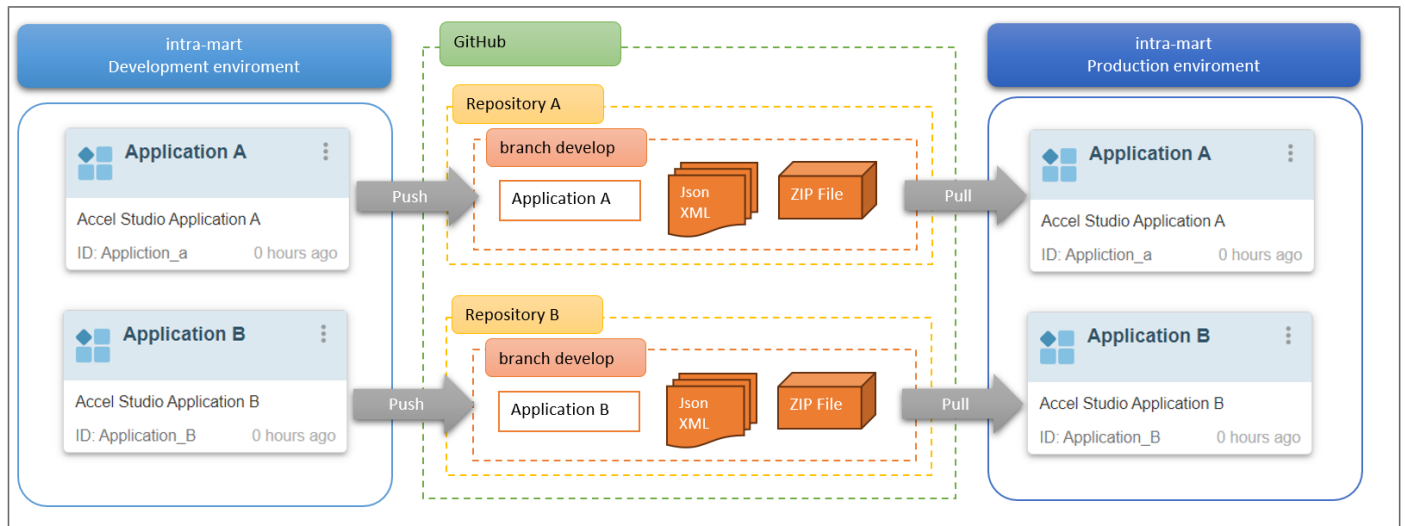
- Git認証定義で扱う情報
- Git認証定義の動作仕様
- アプリケーションのアップロード・インポートで扱う情報
- アップロードの動作仕様
- インポートの動作仕様
- リモートリポジトリの連携解除の動作仕様
- 利用時の注意事項

Git連携 とは、Accel Studioで作成したアプリケーションをGitホスティングサービスのリモートリポジトリで管理する機能です。アプリケーションをリモートリポジトリにアップロードしておくことで、検証環境や本番環境など複数の環境にアプリケーションをリリースする際に、リモートリポジトリからアプリケーションをインポートできます。

Git連携機能の特徴は以下の通りです。

- Git認証定義を管理します。
- アプリケーションをリモートリポジトリへアップロードします。
- リモートリポジトリからアプリケーションをインポートします。

アプリケーションに対して、連携先としてリモートリポジトリを設定することで、アップロードおよびインポートが可能です。連携先のリモートリポジトリを変更したい場合は、連携を解除して別のリモートリポジトリを再連携できます。



注意

本機能を利用する場合、連携したいGitホスティングサービス上で、以下の事前準備が必要です。

- 連携するリモートリポジトリの作成
- Gitと認証するためのパーソナルアクセストークンの作成

事前準備の詳細は、「[Gitホスティングサービスのセットアップ](#)」を参照してください。

コラム

本機能では以下のGitホスティングサービスを利用可能です。

- GitHub
- GitLab
- Backlog

Git認証定義で扱う情報

Git認証定義で扱う情報は、以下の通りです。

- ユーザ名
 - Gitのユーザ名

- アプリケーションのアップロード時に利用されるユーザ名です。
- メールアドレス
 - Gitのメールアドレス
 - アプリケーションのアップロード時に利用されるメールアドレスです。
- アクセストークン
 - 連携先のGitホスティングサービスで作成したパーソナルアクセストークンです。



注意

メールアドレスは、連携先のGitホスティングサービスのユーザと、Gitのユーザを紐づけるための情報です。
Git認証定義で登録したメールアドレスが、Gitホスティングサービスで利用しているメールアドレスと異なる場合、アカウント同士が紐づきません。
コミット履歴にはGit認証定義で登録したユーザ名が表示されます。



注意

連携先のホスティングサービスがBacklogの場合、ユーザ名にメールアドレスを利用してください。



コラム

Git認証定義はログインユーザと紐づき、1対1で管理されます。
そのため、ログインユーザに対して複数のGit認証定義を登録することはできません。
Git認証定義を変更したい場合、登録済の認証定義を削除した後、再度登録してください。

Git認証定義の動作仕様

Git認証定義の動作仕様は、以下の通りです。

Git認証定義の新規登録

Git認証定義として、ユーザ名、メールアドレス、アクセストークンを登録します。
認証定義の登録が完了すると、Git認証定義の参照・削除画面へ遷移します。

Git認証定義の削除

Git認証定義を削除します。
認証定義の削除が完了すると、Git認証定義の登録画面へ遷移します。

登録されたパーソナルアクセストークンの有効期限が切れた場合も、Git認証定義が自動で削除されることはありません。
上記の場合、連携先ホスティングサービスでパーソナルアクセストークンの更新または再作成を行ってください。



コラム

外部システムユーザ識別子設定から、すでにGitに対してユーザコードが登録済の場合、Git認証定義画面のユーザ名に初期表示されます。
また、外部システムユーザ識別子設定からユーザ情報を削除した場合、Git認証定義は再登録が必要です。
Git認証定義を変更したい場合、登録済の認証定義を削除した後、再度登録してください。

アプリケーションのアップロード・インポートで扱う情報

Git連携機能 のアプリケーションのアップロード、および、インポートで扱う情報は、以下の2つです。

- 連携先情報
 - リモトリポジトリとの連携に利用する情報です。
 - リポジトリのURL
 - 連携したいリモトリポジトリのURLです。
 - ブランチ名
 - 連携したいブランチ名です。

- コメント
 - アップロード時のコメントです。アップロード時のみ必須です。
- アップロード情報
 - リモートリポジトリへアップロード、および、リモートリポジトリからインポートされる情報です。
 - アプリケーション情報
 - アプリケーション名、備考（国際化情報）を含みます。
 - アプリケーションのリソース関連情報を含みます。
 - アプリケーションカテゴリ
 - カテゴリ名（国際化情報）を含みます。
 - リソース情報
 - 各ローコード資材別にエクスポートされた資材を含みます。
 - リソース情報の詳細は「[リソース情報詳細](#)」を参照してください。
 - アプリケーションのZIPファイル
 - アプリケーションのエクスポートを行った際に出力されるZIPファイルと同じファイルです。



注意

Git連携 でアップロードするアプリケーションには、アーカイブ情報は含まれません。
アーカイブ機能の詳細は「[アーカイブ機能](#)」を参照してください。



注意

SSHを使用して連携先のGitホスティングサービスに接続することはできません。
リポジトリURLにはHTTPSに対応するURLを設定してください。



注意

リモートリポジトリからインポートを行う場合、インポートされるのは、sourceフォルダ配下のアプリケーション情報、アプリケーションカテゴリ、リソース情報です。
アプリケーションのZIPファイルではないことに注意してください。



コラム

リソース情報は、アプリケーションエクスポートZIPを解凍し、内部のJSONファイルを整形した状態で格納されます。
リポジトリにアップロードされたアプリケーションのZIPファイルは、アプリケーションのインポート機能でインポート可能です。

アップロードの動作仕様

アプリケーション詳細の Git連携 のメニューから操作します。
アプリケーションがリポジトリに連携済かどうかによって、表示されるメニューが異なります。詳細は以下の通りです。

- リモートリポジトリに未連携の場合
 - リポジトリ連携ダイアログの連携先の設定から、連携先の登録とアップロードを行います。
- リモートリポジトリに連携済の場合
 - Git連携メニューのアップロードから、アップロードを行います。

リモートリポジトリに未連携の場合

リポジトリ連携ダイアログから連携先情報を設定し、リモートリポジトリとの連携、および、アップロードを行います。
リポジトリ連携は以下2つのステップで設定を行う必要があります。

- 1. Git連携先の設定
 - 認証定義と連携先のリポジトリURLを設定します。
 - Git認証定義が未登録の場合、ダイアログから登録できます。
- 2. アップロード

- 連携先のブランチ名、コメントを設定し、リモートリポジトリにアップロードします。
 - アップロードを行うと、現在のアプリケーションの状態リモートリポジトリの内容を上書きしてコミット・プッシュが行われます。
- ブランチに関する仕様について詳細は以下を参照してください。
 - **ブランチを新規登録する場合**
 - ブランチ名に新規作成したいブランチの名前を入力してアップロードすると、リモートリポジトリにブランチが新規作成されます。
 - ブランチの派生元は連携先リポジトリのデフォルトブランチです。
 - **リモートリポジトリの既存ブランチに連携する場合**
 - リモートリポジトリに既にブランチが存在する場合、既存ブランチ名が候補として表示されます。



注意

ブランチ名には以下の条件を満たす名前を設定してください。

- 文字種が半角英数、ピリオド、ハイフン、アンダースコア、スラッシュ
 - 末尾にスラッシュ、ピリオドが利用されていない
- 先頭は全角または半角の英数字のみ



注意

リモートリポジトリに既に存在するブランチを選択してアップロードした場合、ブランチ上のアプリケーションが上書きされるため注意してください。

リモートリポジトリに連携済の場合

アプリケーション詳細のGit連携のメニューからアップロードを選択します。

アップロードダイアログでコメントを入力しアップロードします。

現在のアプリケーションに含まれていないコミットが、リモートリポジトリのアプリケーションにだけ含まれている場合、アップロードダイアログに警告メッセージを表示します。



注意

警告メッセージが表示された状態でアップロードを行う場合、リモートリポジトリのアプリケーションが現在のアプリケーションで上書きされます。

リモートリポジトリだけに含まれているコミット情報が上書きされる可能性があるため、確認してからアップロードを行ってください。



注意

パーソナルアクセストークンの有効期限が切れた場合、アップロードに失敗することがあります。

その場合、新しくGitの連携先ホスティングサービスでパーソナルアクセストークンを発行してください。

新しく発行したパーソナルアクセストークンを登録したい場合は、Git認証定義を削除した上で、新規にGit認証定義を登録してください。

インポートの動作仕様

インポートには以下の2ケースがあります。

- アプリケーションが環境に存在し、アプリケーションがリモートリポジトリと連携済の場合
 - アプリケーション詳細のGit連携メニューの「インポート」から操作します。
- アプリケーションが環境に存在せず、新規にリモートリポジトリからインポートを行う場合
 - サイトマップの「Accel Studio / Git連携 / リモートリポジトリからインポート」からインポート画面へ遷移します。

Git連携機能で利用するインポートの動作仕様は、「[インポート](#)」の動作仕様と同一です。

リモートリポジトリと連携済の場合

アプリケーションがリモートリポジトリに連携済の場合、アプリケーション詳細の Git連携 メニューからインポートを選択し、インポートダイアログが開きます。

「差分確認画面へ遷移」ボタンから、インポート画面へ遷移します。

Git連携機能 で利用するインポートの動作仕様は、「[インポート](#)」の動作仕様と同一です。

現在のアプリケーションと、リモートリポジトリのアプリケーションに含まれるコミットが同一の場合、警告メッセージが表示されます。

リモートリポジトリにアップロードしていない修正がある状態でインポートを行うと、リモートリポジトリの内容でアプリケーションが上書きされます。



注意

パーソナルアクセストークンの有効期限が切れた場合、インポートに失敗することがあります。

その場合、新しくGitの連携先ホスティングサービスでパーソナルアクセストークンを発行してください。

新しく発行したパーソナルアクセストークンを登録したい場合は、Git認証定義を削除した上で、新規にGit認証定義を登録してください。

アプリケーションが環境に存在せず、新規にリモートリポジトリからインポートを行う場合

サイトマップの「Accel Studio / Git連携 / リモートリポジトリからインポート」メニューからインポートを行います。

リモートリポジトリからインポートした際、新規にアプリケーションをインポートするには以下2つの情報が必要です。

詳細は「[アップロードの動作仕様](#)」を参照してください。

- 連携先情報
- アップロード情報

リポジトリURLを入力し、「ブランチを取得」ボタンを押下すると、リモートリポジトリのブランチがプルダウンで選択可能です。ブランチを選択して、内容の確認を行った後にインポートします。

インポート前に、対象のアプリケーション情報として以下の情報の確認ができます。

- アプリケーション情報
- アプリケーションカテゴリ情報
- リソース情報
 - リソース情報の詳細はインポート・エクスポートの「[リソース情報詳細](#)」を参照してください。

インポート前に、リソース差分の確認ができます。

インポート適用時のリソース差分の確認については「[インポート適用時のリソース差分の確認](#)」を参照してください。

Git認証定義が未登録の場合、画面上からGit認証情報を登録します。

Git認証定義の詳細は「[Git認証定義の動作仕様](#)」を参照してください。

リモートリポジトリの連携解除の動作仕様

Git連携 メニューの「リポジトリの連携を解除」から、アプリケーションとリポジトリの連携を解除します。

連携を解除してもリモートリポジトリのアプリケーションは削除されません。

また、連携先のリモートリポジトリ内のブランチも削除されません。

アプリケーションとリポジトリの紐づけを解除した後、再度アプリケーションに別のリポジトリを連携したい場合、リポジトリ連携ダイアログから再連携してください。

詳細は「[リモートリポジトリに連携済の場合](#)」を参照してください。

利用時の注意事項

Git連携機能 を利用する際は以下の注意事項をふまえ、利用してください。



注意

1リポジトリで複数のアプリケーションを管理することはできません。

すでにアプリケーションが連携済みのリポジトリに対して、別のアプリケーションをアップロードしようとした場合は、エラーが発生します。

連携先のGitホスティングサービスで、直接リポジトリに対して複数アプリケーションをプッシュした場合、リモートリポジトリからインポートする際にエラーが発生します。



注意

連携先のGitホスティングサービスにてアップロード可能なファイルサイズは100MBです。上限を超過した場合、アップロード時にエラーが発生します。



注意

リモートリポジトリにアップロードされたjson、および、XMLファイルを直接編集してインポートした場合、アプリケーションが正常に動作しなくなる可能性があります。

付録

Gitホスティングサービスのセットアップ

ここでは、Git連携機能 を利用する際の連携先ホスティングサービスの設定方法を記載します。

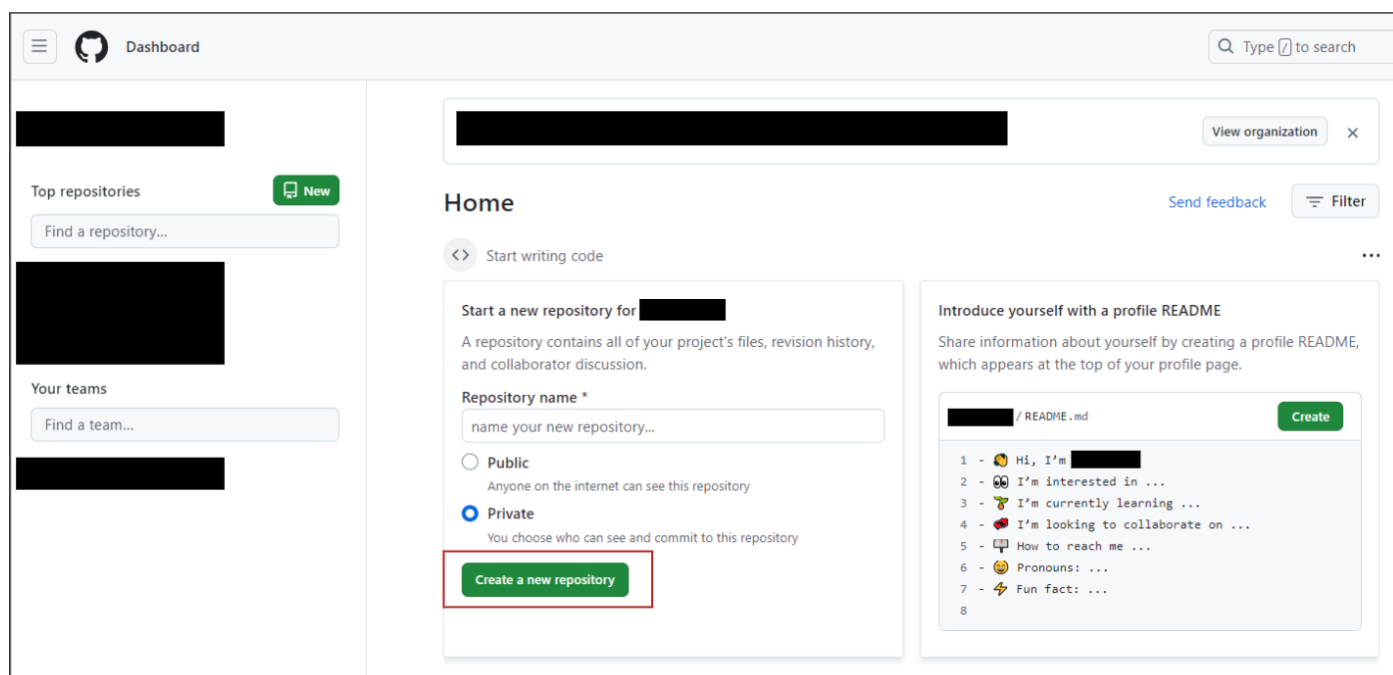
コラム

各サービスのバージョンによって、手順や画面が異なる場合があります。
詳細な作成方法については、各サービスのドキュメントを参照してください。

GitHub

リポジトリの作成

1. GitHubにログインして「Create repository」または「Create a new repository」ボタンをクリックします。



2. Repository nameを入力し、PublicかPrivateを選択して「Create repository」ボタンをクリックします。

Create a new repository

A repository contains all project files, including the revision history. Already have a project repository elsewhere? [Import a repository.](#)

Required fields are marked with an asterisk (*).

Owner * / Repository name *
 app001 is available.

Great repository names are short and memorable. Need inspiration? How about [redesigned-engine](#) ?

Description (optional)

- ☐ **Public**
Anyone on the internet can see this repository. You choose who can commit.
- ☒ **Private**
You choose who can see and commit to this repository.

Initialize this repository with:

- ☐ Add a README file
This is where you can write a long description for your project. [Learn more about READMEs.](#)

Add .gitignore

.gitignore template:

Choose which files not to track from a list of templates. [Learn more about ignoring files.](#)

Choose a license

License:

A license tells others what they can and can't do with your code. [Learn more about licenses.](#)

You are creating a private repository in your personal account.

Create repository

3. リポジトリが作成されます。リポジトリURLをコピーして利用してください。

The screenshot shows the GitHub interface for a newly created private repository named 'app001'. The repository is under the user's personal account. The page displays options to start coding with Codespaces, add collaborators, and provides a 'Quick setup' section for cloning the repository. The 'Quick setup' section shows the 'HTTPS' URL as 'https://github.com/[username]/app001.git', which is highlighted with a red box. Below this, there are two sections for creating or pushing a repository from the command line, each with a code block and a copy icon.

```

...or create a new repository on the command line

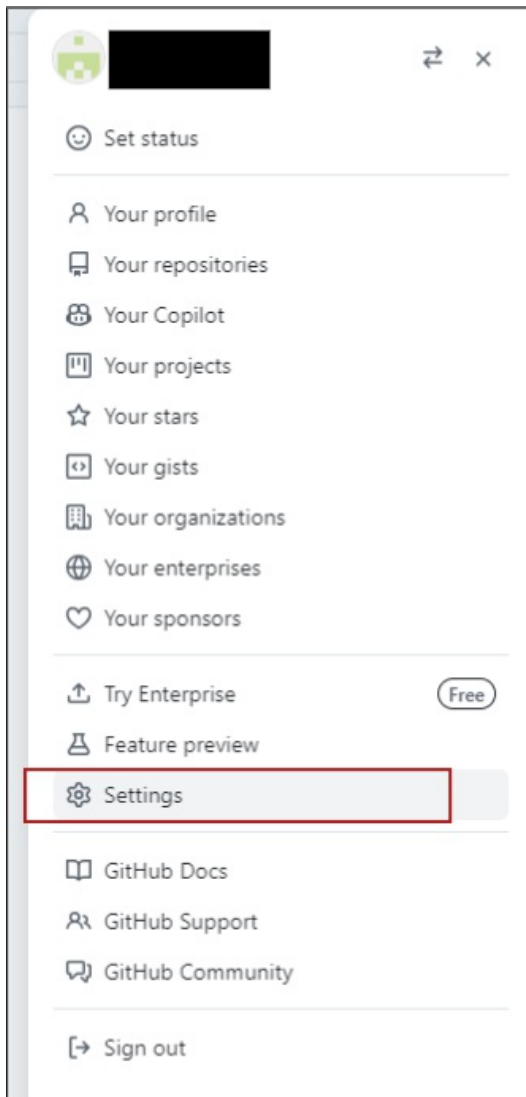
echo "# app001" >> README.md
git init
git add README.md
git commit -m "first commit"
git branch -M main
git remote add origin https://github.com/[username]/app001.git
git push -u origin main

...or push an existing repository from the command line

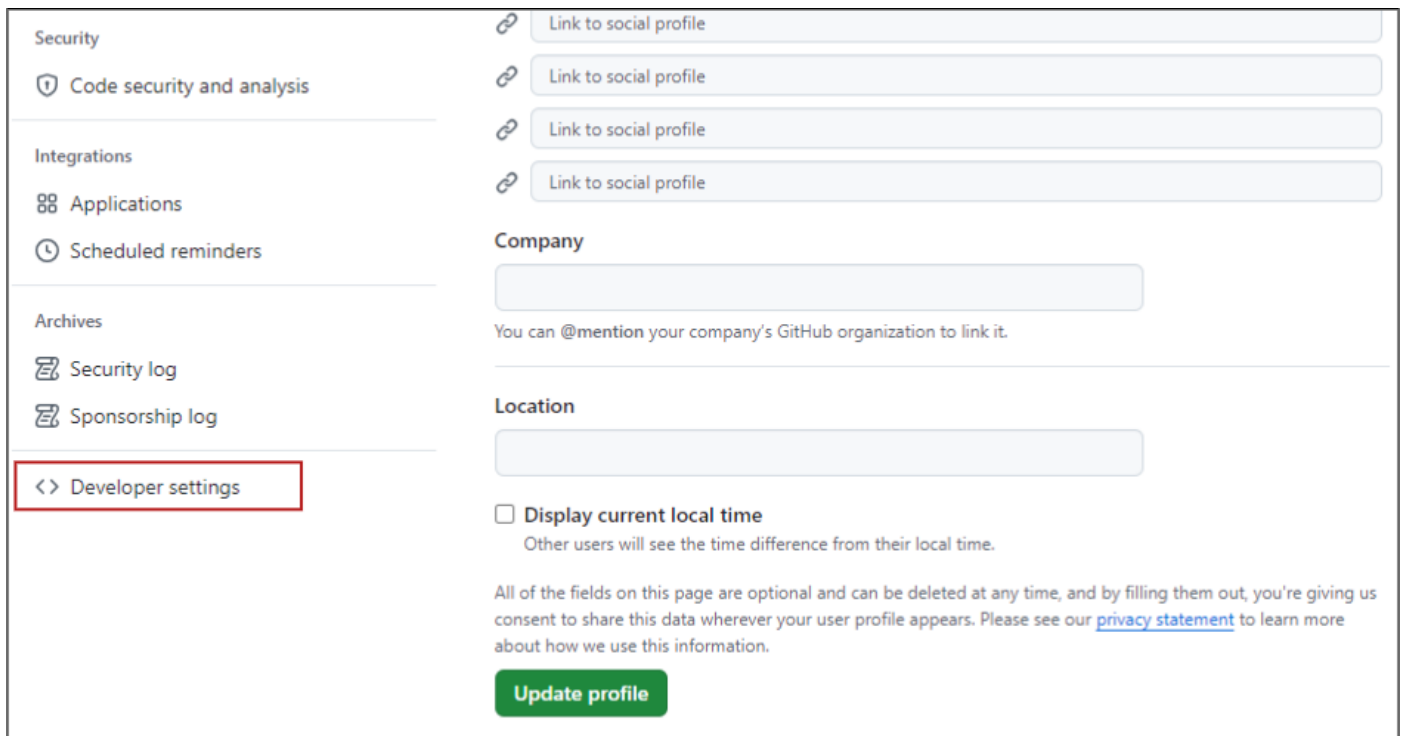
git remote add origin https://github.com/[username]/app001.git
git branch -M main
git push -u origin main
    
```

パーソナルアクセストークンの作成

1. GitHubのアイコンをクリックしメニューから「Settings」を選択します。

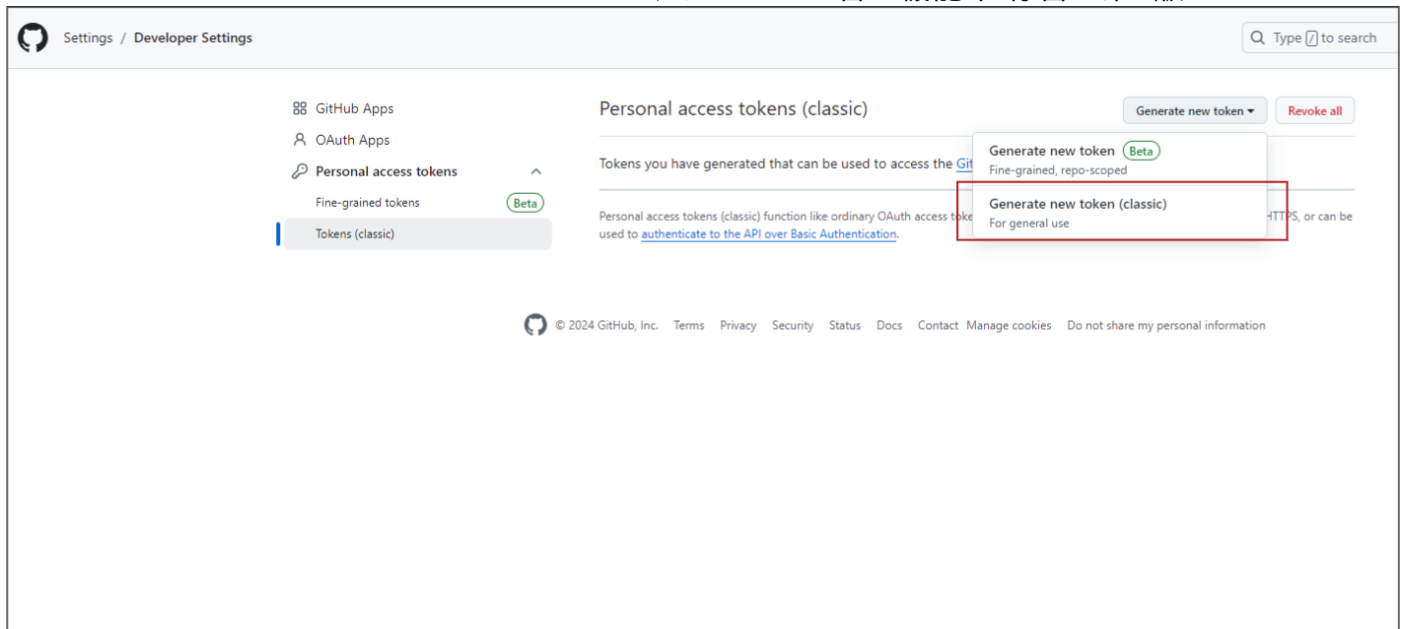


2. 左のメニューの「Developer settings」を選択します

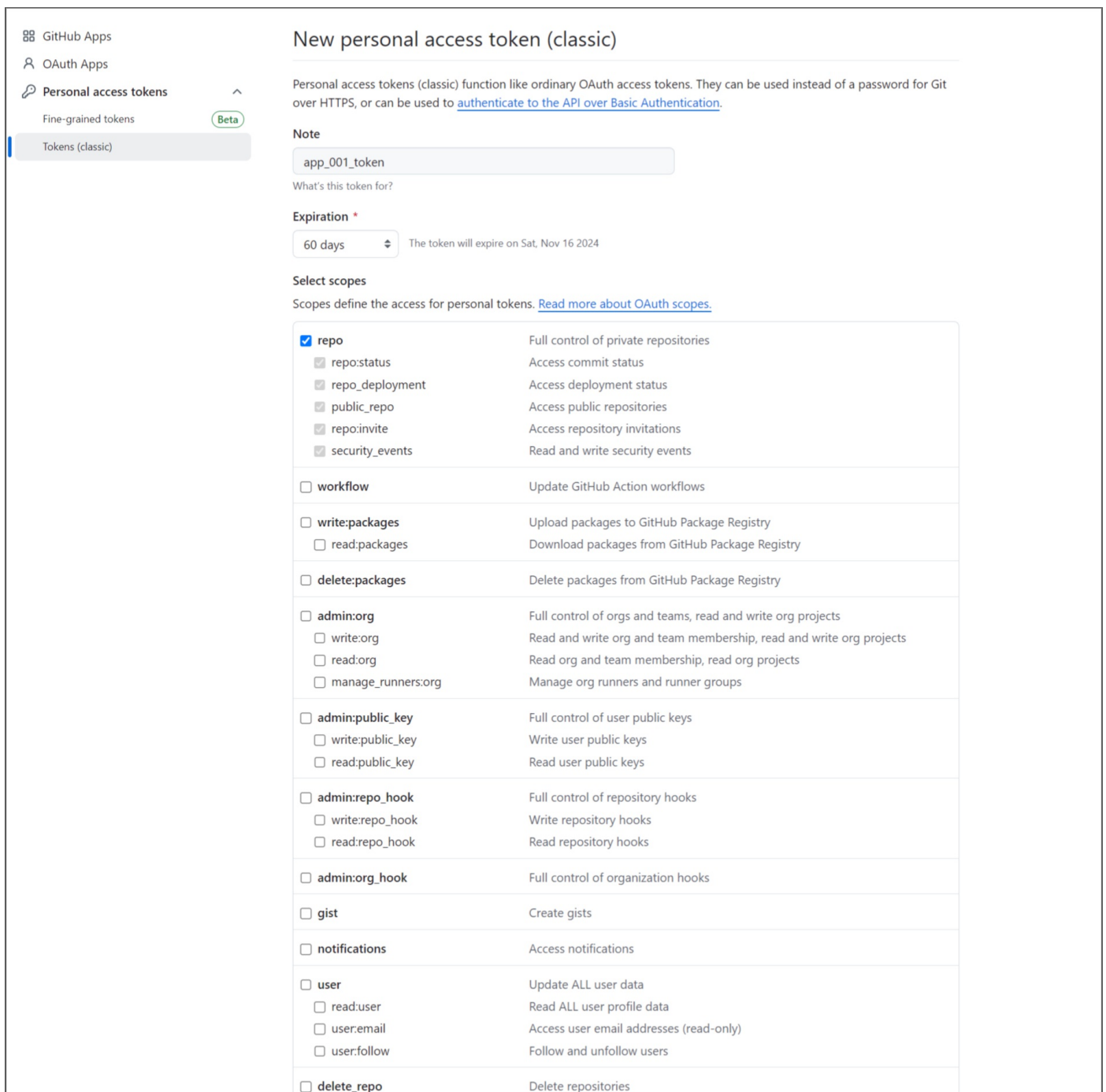


3. 左のメニューの「Personal access tokens」／「Tokens (classic)」を選択します。

4. 右上の「Generate new token」で「Generate new token (classic)」を選択します。



5. Noteを入力し、必要な権限にチェックを入れ「Generate token」ボタンをクリックします。



☐ write:discussion	Read and write team discussions
☐ read:discussion	Read team discussions
☐ admin:enterprise	Full control of enterprises
☐ manage_runners:enterprise	Manage enterprise runners and runner groups
☐ manage_billing:enterprise	Read and write enterprise billing data
☐ read:enterprise	Read enterprise profile data
☐ audit_log	Full control of audit log
☐ read:audit_log	Read access of audit log
☐ codespace	Full control of codespaces
☐ codespace:secrets	Ability to create, read, update, and delete codespace secrets
☐ copilot	Full control of GitHub Copilot settings and seat assignments
☐ manage_billing:copilot	View and edit Copilot Business seat assignments
☐ project	Full control of projects
☐ read:project	Read access of projects
☐ admin:gpg_key	Full control of public user GPG keys
☐ write:gpg_key	Write public user GPG keys
☐ read:gpg_key	Read public user GPG keys
☐ admin:ssh_signing_key	Full control of public user SSH signing keys
☐ write:ssh_signing_key	Write public user SSH signing keys
☐ read:ssh_signing_key	Read public user SSH signing keys

Generate token Cancel

6. パーソナルアクセストークンが生成されます。コピーして利用してください。

GitHub Apps

OAuth Apps

Personal access tokens

Fine-grained tokens

Tokens (classic)

Personal access tokens (classic)

Generate new token ▼ Revoke all

Tokens you have generated that can be used to access the [GitHub API](#).

Make sure to copy your personal access token now. You won't be able to see it again!

Delete

Personal access tokens (classic) function like ordinary OAuth access tokens. They can be used instead of a password for Git over HTTPS, or can be used to [authenticate to the API over Basic Authentication](#).

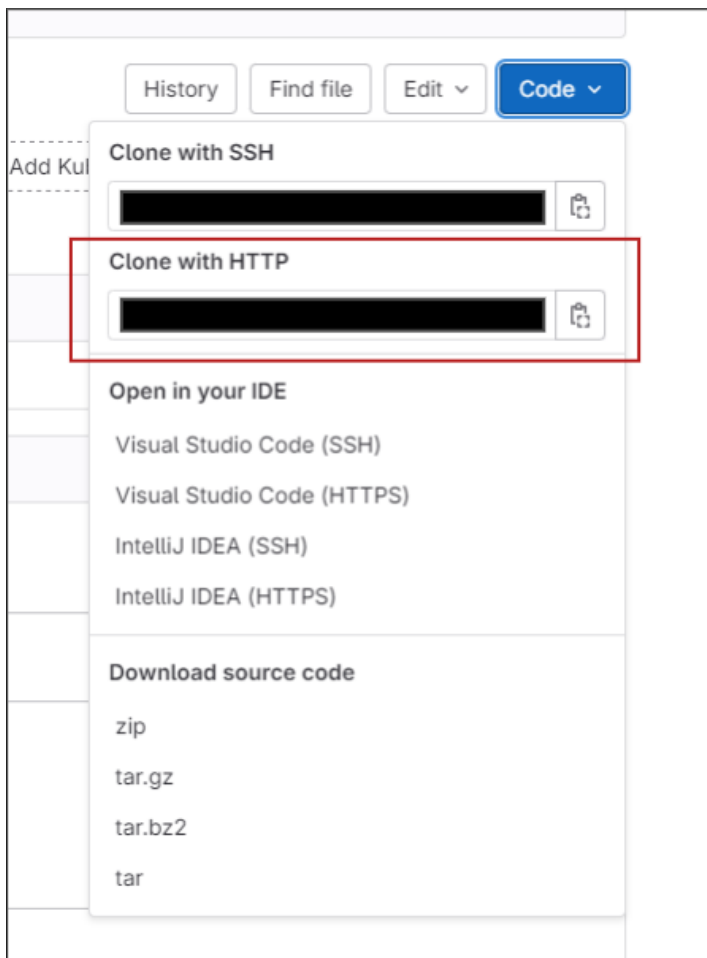
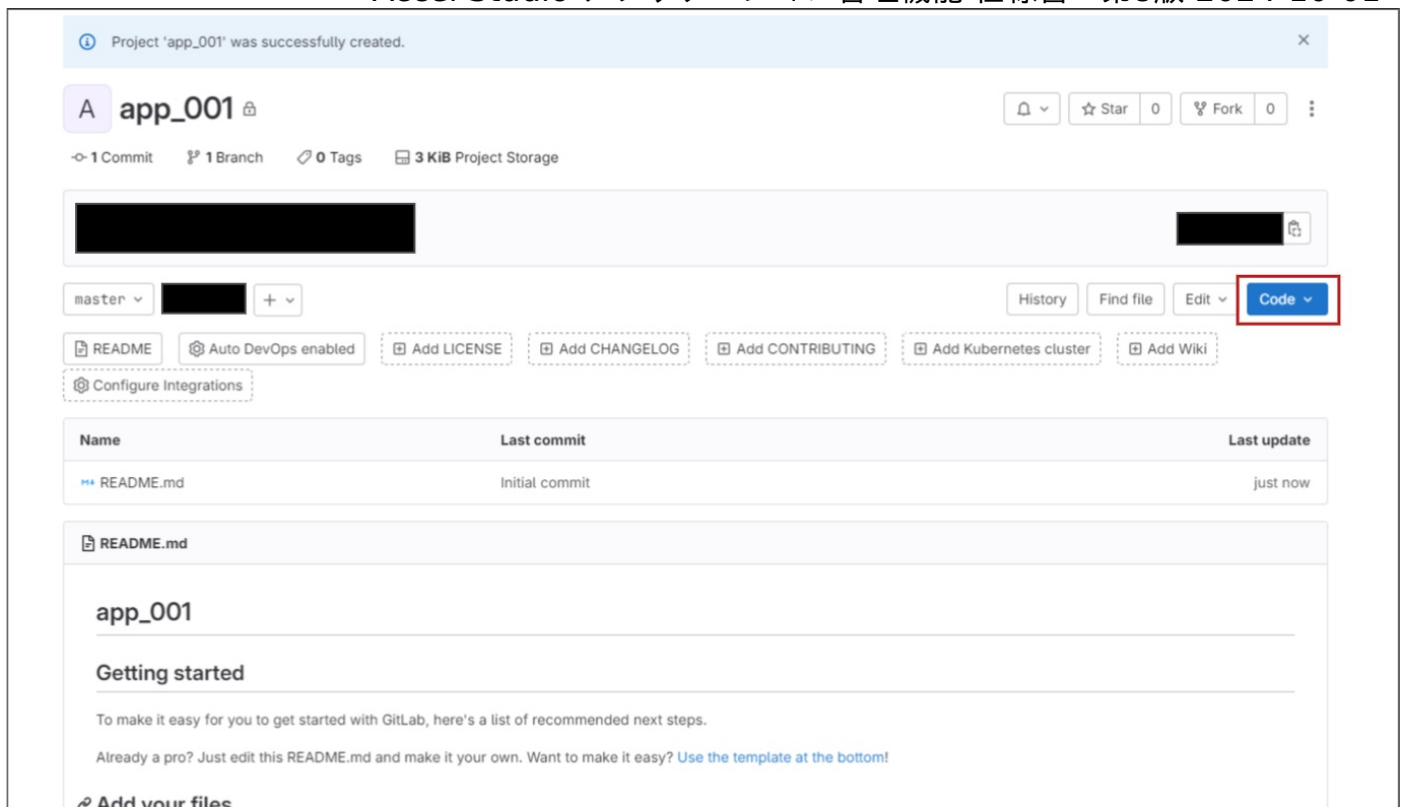
© 2024 GitHub, Inc. Terms Privacy Security Status Docs Contact Manage cookies Do not share my personal information

GitLab

リポジトリの作成

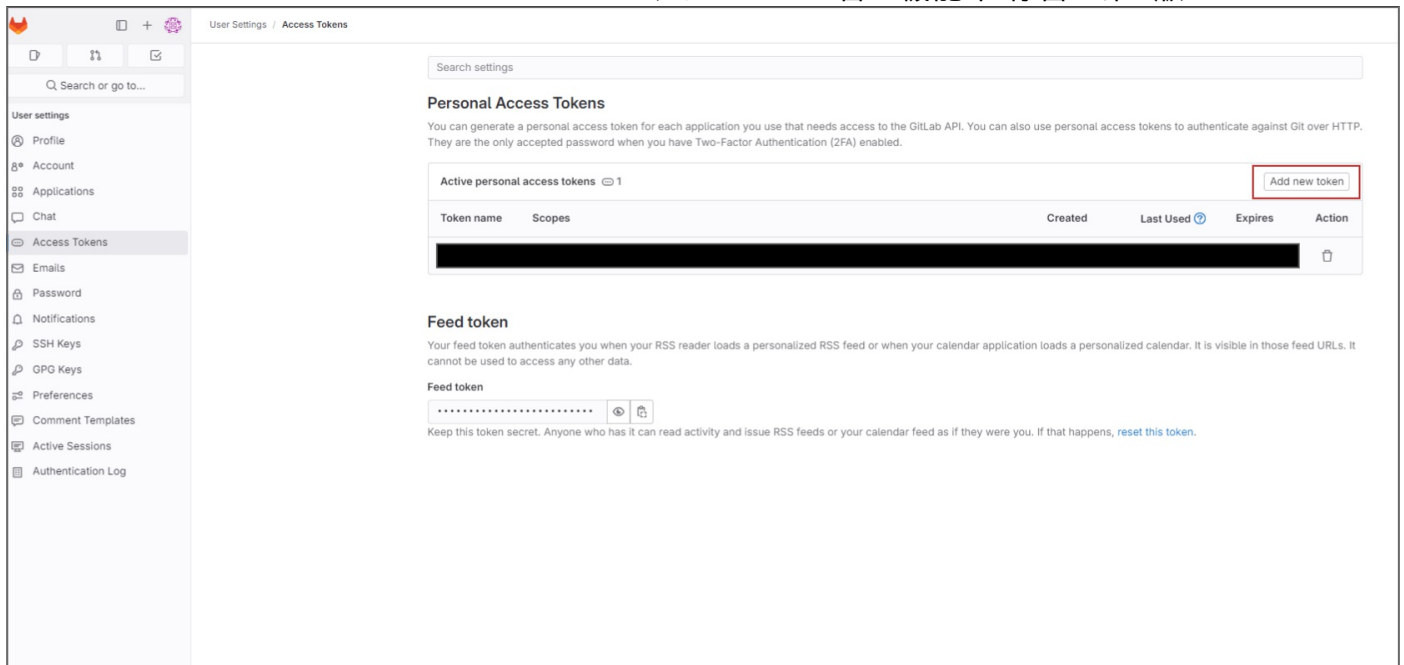
1. GitLabにログインし、新しいプロジェクトを作成します。
2. 「Code」 から「Clone with HTTP」 のURLをコピーし、リモートリポジトリURLとして利用してください。

56

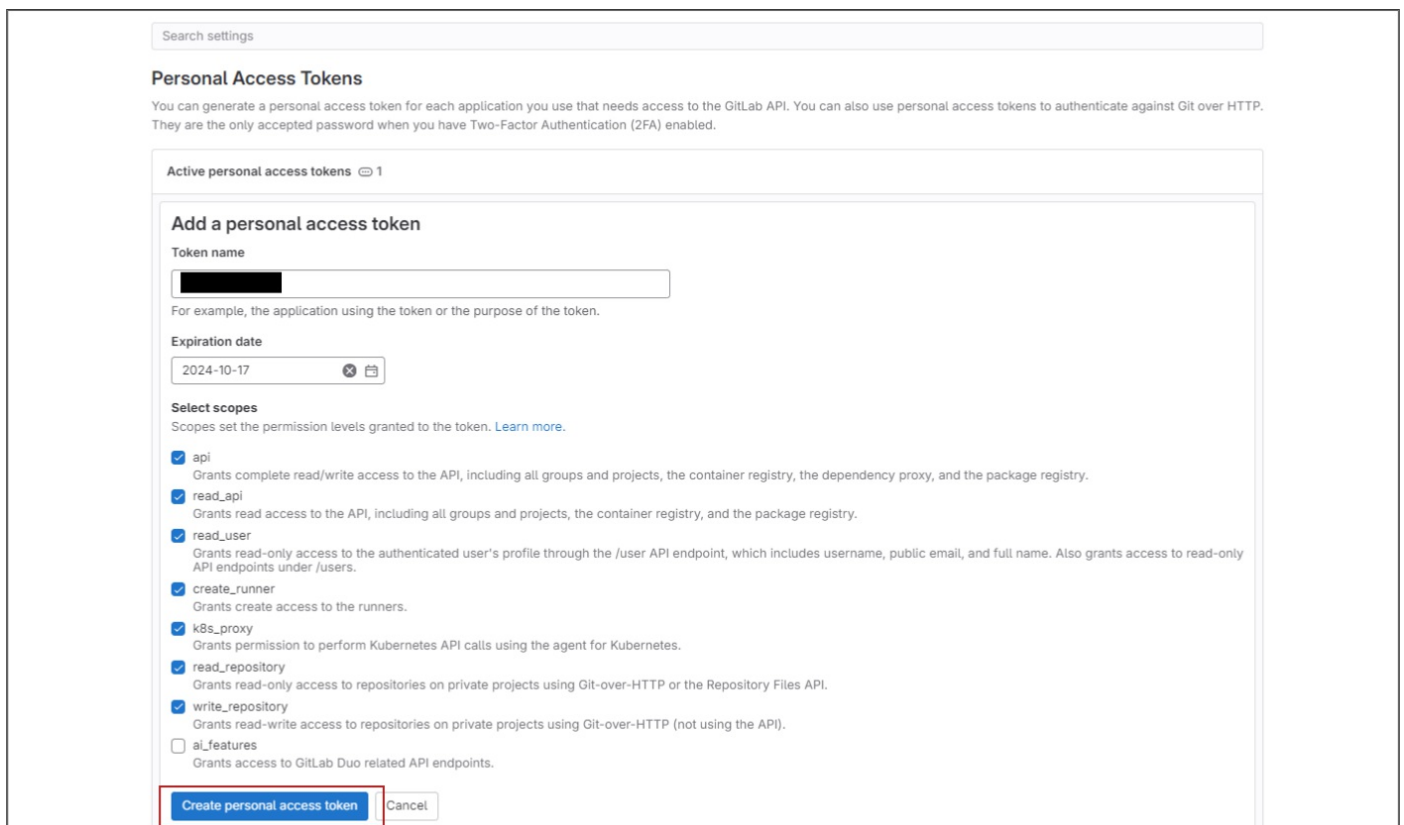


パーソナルアクセストークンの作成

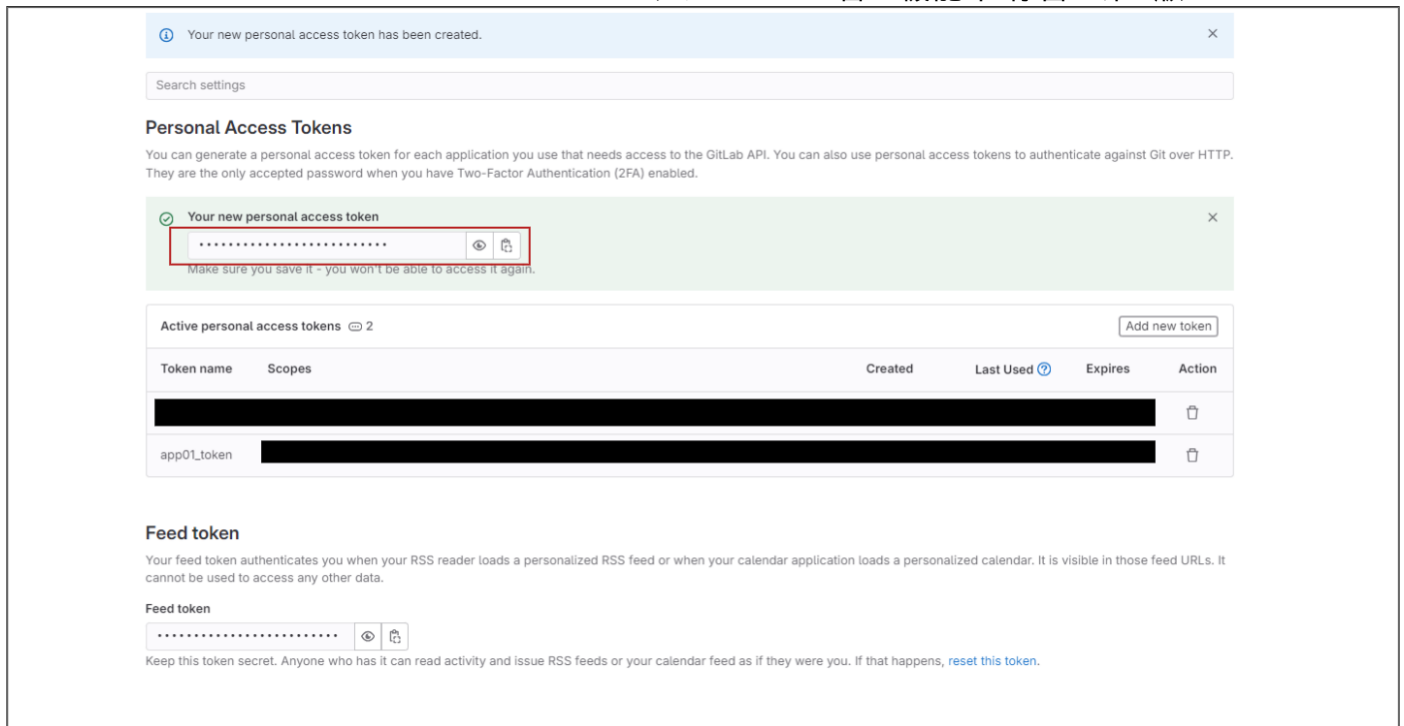
1. ユーザのプロフィール編集画面を開き、左のメニューから「Access Tokens」をクリックします。
2. 「Personal Access Tokens」の画面が開いたら、「Add new Token」をクリックします。



3. 「Token name」を入力し、必要な権限にチェックを入れ「Create personal access token」ボタンをクリックします。



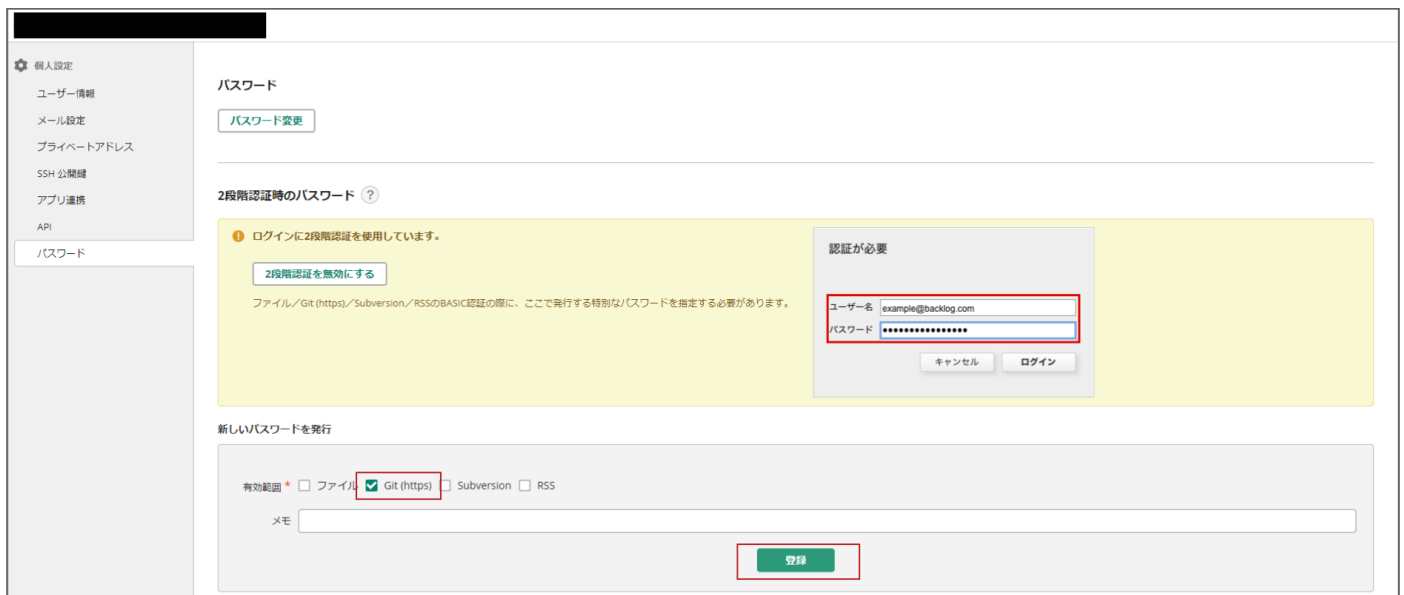
4. パーソナルアクセストークンが生成されます。コピーして利用してください。



Backlog

パーソナルアクセストークンの作成

1. 個人設定から「パスワード」をクリックします。
2. 「新しいパスワードを発行」から「有効範囲」を「Git(https)」に設定し、「登録」ボタンをクリックします。



3. パーソナルアクセストークンが生成されます。コピーして利用してください。

新しいパスワードを発行

有効範囲 * ☐ ファイル ☐ Git (https) ☐ Subversion ☐ RSS

メモ

登録

発行されたパスワード

パスワード	有効範囲	メモ	登録日	最終使用	削除
	Git (https)		たった今	-	×

 コラム

Backlogにおけるリモートリポジトリの作成方法についてはBacklogのサイトを参照してください。

<https://backlog.com/ja/enterprise-help/userguide/userguide1289/>（日本語）

<https://nulab.com/backlog/enterprise/help-guide/users-guide/git/#create-git-repository> (英語)